

學 報

Kobe College Bulletin

ISSN0389-164X

NO. 174

2015. 7. 3

神戸女学院

学報委員会

学長就任のご挨拶

—神戸女学院に育てられて—

学 長 齊 藤 言 子

このたび、飯謙学長任期満了のあとを受けまして、4月1日より第16代目の学長を拝命いたしました。私は本学音楽学部の声楽専攻出身です。音楽学部からの学長就任は初めてということもあり、身に余る大役とその重責におののき、押しつぶされそうになりながら、今までの人生の中での最大級の覚悟と緊張感をもって、就任式に臨ませていただきました。

学生時代から今に至るまで、嬉しいにつけ悲しいにつけ、何かあるといつも一人で籠り、神様に向き合っていた私の大切な居場所、「ソールチャペル」で就任式が執り行われる中、走馬灯のように様々な思い出が頭の中を駆け巡りました。今から42年前の入学試験は稀にみる大雪の日でした。試験が終了し、ともに受験した仲間たちと音楽館の前に並び、90度のお辞儀、「また、みんなでここに帰って来られますように！」と最敬礼をしました。合格発表の日は雪交じりの小雨でした。合格発表は講堂前に受験番号が貼り出されることになっており、正門から講堂まで、坂と階段を一気に駆け上りました。係りの方が巻かれた紙を持ってこられて広げると、歓声が沸き上がり、私も母と嬉し涙を流しながら抱き合いました。その様子が翌日の新聞に大きく掲載されるという嬉しいおまけまで付きました。どうしても、神戸女学院大学音楽学部で学びたかったのです。キリスト教精神の上に培われた責任ある自由な校風に憧れていました。

入学後は神様の愛に守られ、教職員の皆様に支えられ、友人たちに恵まれ、豊かな自然に包まれて、精神的にも満たされた至福の日々でした。音楽はも



しろんのこと、色々な分野の勉強をすることにより、種々の養分を与えられ、まさに「わが青春に悔いはなし！」と言い切れる充実の大学生活を送りました。音楽学部の学生も、英語の授業はかの有名な（今では伝説のようになっていますが）ボガード先生に教えていただきました。とても厳しい先生でしたが、学生への愛に溢れた指導、その教室（文学館2階北端）の少しくぐもったような匂いまでが、感謝とともに懐かしく今も鮮明によみがえってまいります。

大学を卒業し研究生修了後、イタリアの国立ヴェルディ音楽院（ミラノ）に留学し、イタリアオペラのシャワーを浴び、心を揺さぶる歌の真髄に触れることができました。そして何よりの成果は、神戸女学院での学びが国際的に通用するものだったということに再認識したことでした。帰国後、幸せなことに、母校に教師として迎えていただくことになり、非常

勤講師として7年、専任教員として早27年がたちました。学生たちとは切磋琢磨し共に成長しながら指導に当たらせていただいているというのがびったりの表現ですが、磨けば光る才能を秘めた学生が多く、卒業後も与えられた場所で活き活きと本領を発揮している姿は、とても嬉しく教師冥利に尽きます。また、音楽学部創立100周年の記念行事の一環として行われましたアメリカ演奏旅行（教員3人、学生3人）ではシカゴのKCCの皆様に変なお世話になり、加えて全米からも多くの同窓生が駆けつけてくださり、私たちの演奏を支えてくださいました。海を越えて、同窓生の深い絆に感謝と感動の毎日でした。

私は大学教員であるとともに多くのコンサート、オペラの舞台にも立ってきました。舞台は一旦幕が開けば、何があっても止まることができない瞬間芸術の世界です。何かアクシデントが起きた時には、瞬時に判断し強引にでも何とか対応し、進み続ける能力と度胸が必要とされますが、今回私が拝命した立場は、たとえ進行中であっても立ち止まり、じっくりと判断することと、時には振り返り謙虚に出直す勇気も必要だということを、改めて自分に言い聞かせています。共通点は、心身のコンディションキープの大切さ、多くの人々が見えるところ見えないところで協力し、心を合わせ、ベストを尽くし同じ目標に向かって進んでゆくということでしょうか。

近年、リベラルアーツという言葉が、世間で理解され初め注目を浴びてきています。受験生である18歳人口が減少を始める2018年に向け、全国どの大学においてもその対策に必死になっています。神戸女学院は少子化に加え女子大ということで、苦戦を強いられることになるでしょう。時代の流れの中で、本学もカリキュラム改革や学科再編成を行い、教育内容も変化してきましたが、魅力ある女子大として他大学とは一線を画した形で生き残るべく、再びリベラルアーツを大きな柱として、2018年問題に取り組んでいます。副専攻プログラムにより、通訳・翻訳（英語と日本語）プログラムを修了した音楽学部の学生もいますし、また、今年度より始まったリベラルアーツ&サイエンスプログラムで、学部を横断し、専門以外の分野の勉強も可能となり、音楽学部で声楽やチェロの個人レッスンを履修する他学部の

学生もいます。神戸女学院が最も澁刺として誇りと自信に満ち溢れていた時代の良き教育体制が見直され、これからの教育に取り入れられていくようにも感じています。教育内容の充実はもちろんですが、側面からのサポートは必須です。在学生、卒業生の活動・活躍なども含め、スピード感・アピール効果のある広報は、今の神戸女学院に最も求められる要素の一つです。そして、さらに願うことは、卒業生が教員として母校に戻り、研究・教育にあたり、学生たちの憧れのロールモデルにもなってくれることです。また、皆の背景は様々ですが、キリスト教学や礼拝、行事、讃美歌などを通して、「愛神愛隣」の神様の思いと畏敬の存在を心のどこかに置きながら人生を歩んでほしいと願います。入学式には不本意入学生もいますし、高校生気分が抜けきらない新入生たちもいます。しかし卒業式では、神戸女学院での学びに満足し、素敵なレディに成長した姿に、教職員一同、毎年感無量でその巣立ちを見送っています。これこそが、良き伝統が実を結んでいる姿なのだと確信するのです。卒業後は専門分野において国内外で活躍する人も多く、また、優良企業への就職率も高く、仕事内容、人間力なども含め、職場からは高い評価と信頼を得ています。

飯前学長からは「『女性のエンパワーメント』について考え、卒業生だからできる『女性が輝ける大学』を目指して先導してほしい」との引き継ぎのお言葉をいただいております。神戸女学院には、まだ女性の地位が確立していなかった時代から、広く世界でリーダーシップをもって活躍されていた方々が多くいらっしゃいました。その先人たちの歩みに続く、真に優しくたくましい上質の女性を送り出してゆくに少しでもお役に立つことができましたら、こんな幸せなこととはございません。学長就任式では、小さい頃からの愛唱歌である讃美歌「わが主のみまえに」をリクエストさせて頂きましたが、「主イエスにならいて、人をばへだてず」「主イエスは、み弟子の足をも洗いて」という歌詞を改めてしっかりと心に刻みました。飯前学長が神戸女学院の未来を見据えながら、在任6年間で築いてくださった土台の上に、神戸女学院ならではの花を咲かすことができますように、一生懸命に尽くさせていただきます。皆様のご指導、お支えを賜りますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。

KCCだより

[Kobe College Corporation (KCC) was established in 1920 in Chicago, Illinois, as a non-profit organization by a group of Christian philanthropists. Its original purpose was to provide financial support for the relocation of the Kobe College campus from Kobe to Nishinomiya. Ever since, KCC has been a strong supporter of the school, both materially and spiritually, creating opportunities for cross-cultural educational experiences for students and teachers. In 2004, the organization added "Japan Education Exchange" to its original name as its activities expanded beyond support for the school. Kobe College has benefited greatly from the generous support of KCC-JEE for many years.]

"KC visit - July 2014"

KCC-JEE, VP for Finance-Treasurer
Ken Tornheim

On July 4, 2014, during my 2 week stay in Japan, I had the pleasure and honor of visiting Kobe College as a Board member of Kobe College Corporation-Japan Education Exchange (KCC-JEE). I would like to describe the experience of my visit but first explain how I became involved with KCC-JEE which gave me the opportunity to visit Kobe College.

My involvement with KCC-JEE started in 2000 as the outside auditor for the Organization. Our firm had represented KCC-JEE dating back to the late 1970's. As the auditor of KCC-JEE I had the opportunity to work closely with former Board members Dave Therkelson, Pat Gottschalk and Sue Doffing up until around 2007 when KCC-JEE was compelled to shift to a smaller accounting firm as a cost cutting measure. Although disappointed that we were losing a great client, I understood the reason.

After having very minimal contact with KCC-JEE for several years, Dave Therkelson called me in the summer of 2012 to ask if I would like to get involved with the organization again, not as an auditor, but as a board member. I was of course thrilled to hear from Dave and the offer to get involved with this organization once again. I am now in my third year as a Board member and chair

of the Finance Committee and have immensely enjoyed my time working with a great team of Board members on a very worthy mission.

My most recent visit to Japan in July 2014 included a visit to Kobe College in Nishinomiya. I was greeted by KC Chancellor Dr. Koichi Mori and Chief Secretary Ms. Atsuko Ide. Dr. Mori and Ms. Ide were kind enough to give me tour of the beautiful campus. The campus was so peaceful and inviting. It was very interesting to hear about both the history of the school and the campus. I was intrigued by the Spanish mission style architecture of the buildings and how the newer built buildings blended in so well with the original buildings. From my view, I could hardly tell the new from the old. During my afternoon visit, I had the opportunity of experiencing a Japanese tea ceremony conducted by the college tea ceremony club and meeting Mrs. Yoshi Ueda and her students. I truly enjoyed the humble elegance of the ceremonial presentation. I also had the opportunity to meet with KC President Mr. Ken Ii as well as KC High School Principal Ms. Mariko Hayashi. Both Mr. Ii and Ms. Hayashi shared with me useful and interesting information which provided me a greater understanding about the college and high school. I was then introduced to the current Gottschalk teachers. As a board member of KCC-JEE I was glad to have the opportunity to meet the Gottschalk teachers and to hear about their experience of teaching at the KC High School, considering that the Gottschalk teacher program is a major program of KCC-JEE. After a wonderful afternoon on campus, I had the pleasure to have a very enjoyable dinner of great food and conversation with Dr. Mori and Mrs. Mori.

My visit to Kobe College also gave me the opportunity the next morning to visit the Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Institution. I know that Kobe College suffered damage from the earthquake. My visit to the museum gave me greater awareness of the incredible suffering that the people of Kobe faced from the 1995 earthquake.

My visit to Kobe College was a wonderful experience. I left feeling that the visit gave me an even greater appreciation for my contribution as a Board member of KCC-JEE. I hope to have the opportunity to visit Kobe College again in my future travels to Japan.

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (KCC) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のために設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のために、さまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回執筆してくださったのは、財務担当副会長のケン・トーンハイムさん (Mr. Ken Tornheim) です。]



森院長とトーンハイム氏

「2014年7月の神戸女学院訪問」

KCC-JEE 理事、財務担当副会長
ケン・トーンハイム

2014年7月4日、2週間の日本滞在中に、神戸女学院を訪問しました。KCC-JEEの理事としてこのような機会に恵まれ、光栄に思います。今回はこの訪問についてお話しますが、その前に、私がどのようにしてこの機会に恵まれたかをお話します。

私の勤め先が KCC-JEE の会計監査をしていたのは1970年代後半からで、私は2000年から外部監査役として KCC-JEE に携わりました。前会長のサークルスン氏 (Mr. David Therkelson) やガチョック氏 (Dr. Patsy Gottschalk)、ドフィン氏 (Mrs. Susan Doffing) と一緒に仕事をしました。ところが2007年、経費削減のため会計監査を他の監査会社に移されることになったのです。大変残念でしたが、仕方のないことでした。

その後数年間、連絡はほとんど途絶えていたのですが、2012年の夏、Therkelson 氏から電話がありました。今度は外部監査役としてではなく理事として

KCC-JEE に携わってくれないかというのです。私は喜んでこの申し出を受けました。現在、財務委員会の財務委員長として3年目となりましたが、素晴らしい理事の皆様と意義のある活動を楽しんでいます。

さて、2014年7月の神戸女学院訪問です。森院長と院長室の井出課長に美しいキャンパスを案内していただきました。キャンパスはとても穏やかな佇まいを見せ、学院の歴史やキャンパスの成り立ちを伺いながらの散策は、それはとても面白いものでした。スパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎は、新しい建物と古い建物が融合し、私の目からは、どれも新しくどれも古いものか分からないくらいでした。その後、上田淑先生と大学の茶道部の学生によるお茶会に参加しました。学生のおつまみく上品なお茶のお点前に感動しました。そして、飯学長 (当時) と林中高部長にお会いしました。学長と中高部長とのお話を通じ、大学や中高部についての理解をより一層深めることができました。さらに、現在の中高部英語教員とお会いしました。中高部英語教員派遣プログラムは、KCC-JEE の主な神戸女学院支援プログラムの一つなので、先生方から直接に中高部での教育状況を伺えたのは、とても喜ばしいことでした。夜には、森院長ご夫妻と、とてもおいしい食事を楽しませていただきました。

次の日は、阪神淡路大震災記念人と防災未来センターを訪れました。1995年の地震で神戸女学院が甚大な被害を受けたことは知っていましたが、被災された方々が大変な経験をされたことを改めて思い知らされました。

神戸女学院への訪問は、大変素晴らしいものでした。今回の経験を通じて、KCC-JEE のメンバーとしてさらに神戸女学院に貢献したいと考えています。また日本に来る機会がありましたら、きっと神戸女学院を訪問したいと思います。



中高部長、中高部英語教員の皆様と

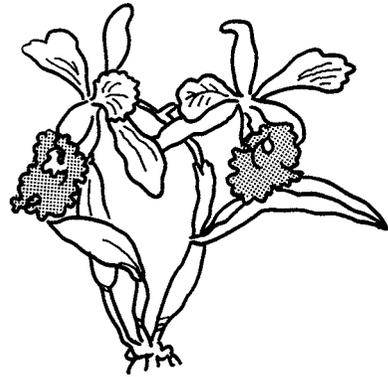
創立140周年記念愛校バザー

5月23日(土)、好天に恵まれ岡田山は初夏の装いで愛校バザーを迎えました。今年は学院の「創立140周年記念」の名のもとに開催され、同窓生、PTA、学生・生徒、教職員が共に協力して1日さわやかな汗を流しました。午前10時の開会前には早くも体育館横に長蛇の列ができ、例年にも勝る売上げの伸長が予感されました。昼ごろには早々に完売となる景気の良い人気店も現れ、終日どの売店も活気に満ちていました。

藤棚や中庭で、まためぐみ会館や社交館と、キャンパスのあちこちで、お友達やご家族連れなど親しい交わりの輪が次々と広がり、懐かしい人や思いがけない人との再会も見られ、それぞれにバザーを楽しんでおられる様子でした。特に中庭では、昨年9月にヴォーリズ建築の校舎群が国の重要文化財に指定されたこともあり、例年以上に大勢の人が集まり、噴水を囲み、また思い思いのアンクルで熱心に写真を撮り合う姿で1日中賑わいました。新入生にとっては初めての愛校バザー、いろいろなご奉仕やお買い物などを通し、意気揚々と岡田山ファミリーの仲間入りを果たしていました。

同窓生、PTA、学生・生徒をはじめ関係者の皆様の尊いご奉仕とご協力により、学院の節目となる創立140周年記念愛校バザーを無事に開催できましたことを心から感謝申し上げます。また来年初夏の岡田山で再会いたしましょう。

(愛校バザー実行委員長)



新任のことば

個人情報保護のため、
6ページ目から14ページ目は削除しています。

人 事

個人情報保護のため、一部削除しています。

学内人事

慶 弔

個人情報保護のため、一部削除しています。

栄 誉

神戸女学院教育振興会寄付金

同窓生	750件	17,127,000円
保護者（大学・中高）	187件	16,115,000円
学外役員・評議員等	27件	2,335,000円
教職員・旧教職員等	65件	2,530,000円
めぐみ会・各種団体・法人等	38件	7,522,608円

合 計 1,067件 45,629,608円
(以上2014.4.1～2015.3.31受付分)

個人情報保護のため、一部削除しています。



神戸女学院2014年度決算報告 及び2015年度事業計画

2014年度に実施した事業の内容及び2015年度事業計画の詳細は、『2014年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html>
 また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照下さい。

I. 2014年度神戸女学院決算報告

1. 2014年度決算の概要

まず、収入の部については、大学において在籍数の多かった学年の卒業等に伴い在校生数が減少し、学生生徒等納付金は前年度比58百万円の減となりました。しかし、私立大学等経常費補助金の一般補助において教育研究経費等を基礎として算定される増減率がプラスに作用するとともに、特別補助では私立大学等改革総合支援事業として新たに追加されたタイプ4「グローバル化」に採択されたことで、経常費補助金は前年度比51百万円の増となりました。さらに、前年度より減少したものの、文学部1号館エレベーター設置や学内LAN無線化のための施設整備費補助金等を確保した結果、補助金収入は全体で前年度比26百万円の増となりました。また、遺贈による大口寄付金（1億44百万円）を受けたことにより寄付金収入も前年度比1億41百万円増加し、帰属収入は前年度比14百万円増の52億46百万円となりました。

消費支出の部については、前年に引き続き、本年度も定年退職者が多く人件費が高水準で推移したこと、またヴァージニア・クラークソン記念館建設に伴う修繕費の増加等から、前年度比1億34百万円増の49億22百万円となりました。

その結果、帰属収支差額は3億23百万円の収入超過（前年度比1億21百万円減）となりましたが、帰属収支差額比率については6.2%と、目標値である8.8%には至りませんでした。

一方、文学部1号館改修工事に伴う建物支出49百万円や新社交館バリアフリー化整備工事に伴う構築物支出14百万円などの設備投資費用に、設備投資にかかる借入金返済42百万円や、奨学金などの基金への組入額2億81百万円を加え、本年度は4億3百万円の基本金組入が必要となりました。その結果、消費収支差額は、80百万円の消費支出超過となりましたが、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として2億36百万円の借入を行ったことにより、41百万円の基本金取崩が発生し、翌年度繰越消費支出超過額は10億16百万円となりました。2015年度以降も、大学入学金減額による減収や、トイレ等

の改修工事費用の負担増が見込まれることから繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続き収支均衡に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、学生生徒等納付金や入学金前受金の減を寄付金収入および補助金収入の増加によってカバーし、さらに、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として長期借入を行った結果、大幅な増収となりました。

一方、支出の部は、前年度に比べ、施設関係支出は1億39百万円減少したものの、コミュニケーションセンターや図書館新館開架書庫照明改修工事などにより修繕費は75百万円増加し、さらに、遺贈による大口寄付金を奨学金に組み入れた結果、資産運用支出も前年度比1億91百万円増加し、次年度繰越支払資金は前年度比42百万円増の26億59百万円に留まりました。

さらに、貸借対照表についてみると、2015年3月末の総資産は前年度比3億51百万円増加し184億43百万円となりました。負債は前年度比28百万円増加し29億9百万円となりました。総資産から負債を控除した自己資金は155億34百万円となり、総資産に占める比率（自己資金構成比率）は2013年度より0.1%改善し84.2%（全国平均85.5%）となりました。

2. 資金収支計算書

2014年度の本学院の資金収支計算書の概要について**前年度決算と対比**しながら以下に記載します。

(1) 収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、大学において在籍学生数の多かった学年の卒業等に伴い在籍学生数が30名程度減少したこと等により、前年度比58百万円の減となりました。

【寄付金収入】

本年度は、卒業生からの遺贈として、1億44百万円の大口径寄付を受けたことにより、前年度比1億40百万円の増となりました。なお、寄付の大半は、教育振興会を通じての寄付です。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、前年度より施設整備費補助金等が減少した一方、大学の経常費補助金において増減率の改善による一般補助金増（41百万円）、改革総合支援事業の採択による特別補助金増（10百万円）等により増加しています。

【資産運用収入】

本年度より、金銭信託による運用を開始した結果、奨学金基金運用収入、受取利息・配当金収入の合

(表1) 資金収支計算書 (単位: 百万円)

収入の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,094	4,093	4,151	△ 58
手数料収入	94	94	90	4
寄付金収入	200	210	70	140
補助金収入	511	515	489	26
資産運用収入	67	74	59	15
資産売却収入	0	0	47	△ 47
事業収入	87	87	91	△ 4
雑収入	145	169	248	△ 79
借入金等収入	236	236	—	236
前受金収入	687	710	821	△ 111
その他の収入	272	272	251	21
資金収入調整勘定	△ 946	△ 968	△ 1,044	76
前年度繰越支払資金	2,617	2,617	2,567	50
収入の部合計	8,067	8,112	7,844	268

支出の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)
人件費支出	3,080	3,093	3,107	△ 14
教育研究経費支出	1,161	1,128	1,051	77
管理経費支出	334	324	301	23
借入金等利息支出	3	3	4	△ 1
借入金等返済支出	102	102	102	0
施設関係支出	280	279	418	△ 139
設備関係支出	138	139	129	10
資産運用支出	303	331	140	191
その他の支出	193	197	130	67
資金支出調整勘定	△ 128	△ 146	△ 157	11
次年度繰越支払資金	2,600	2,659	2,617	42
支出の部合計	8,067	8,112	7,844	268

計額は13百万円増加しています。

【資産売却収入】

前年度は、有価証券売却収入を計上していましたが、本年度は車両売却時の下取り価格のみ計上しています。

【雑収入】

長期勤続の定年退職者が多かった前年度よりも退職者が減少したこと等により、私学退職金財団交付金収入は前年度比88百万円の減となりました。

【借入金等収入】

本年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として、日本私立学校振興・共済事業団より2億36百万円の新規借入を行いました。

【前受金収入】

2015年度の授業料や入学金などで構成される前受金収入は、大学入学金を40万円から20万円に減額したことにより、入学金前受金収入が1億31百万円減少し、全体では1億11百万円の減収となっています。

(2) 支出の部

【教育研究経費支出】

本年度は、コミュニケーションセンターや図書館新館開架書庫照明改修工事などの修繕費の増加(75

百万円増)や、消耗図書費の増加(10百万円増)などにより、全体では77百万円の増加となっています。

【管理経費支出】

教育研究以外のために支出した経費は、前年度に引き続き、受験者数確保の強化を図るため、広告宣伝費を増やした(11百万円増)ことなどにより、全体では23百万円の増加となっています。

【借入金等利息支出、借入金等返済支出】

日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済に伴い、利息支出も減少しています。なお、本年度新規借入分については無利息期間のため、利息は発生していません。

【施設関係支出】

本年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事、コミュニケーションセンター改修工事、文学部1号館改修工事などの建物支出(2億48百万円)、新社交館バリアフリー化整備工事などの構築物支出(30百万円)を計上しています。前年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事費用2億65百万円を建設仮勘定支出として計上しており、全体では1億39百万円の減となっています。

【設備関係支出】

本年度は、中高部の上記新築・改修工事に伴う備品整備や大学での無線ネットワークシステム導入、文学部1号館21教室の机・椅子入替などの教育研究用機器備品支出(1億4百万円)、図書支出(23百万円)などを計上しています。

【資産運用支出】

本年度の主な内訳は、第3号基本金引当資産支出(2億81百万円)であり、遺贈による新たな奨学基金設定等に伴う第3号基本金組入額が増加(1億55百万円増)したことにより、大幅に増加しています。

3. 消費収支計算書

2014年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

(1) 消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付(1百万円)が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、車両下取りによる売却益を計上しているのみです。

これにより帰属収入の合計は、予算比44百万円増の52億46百万円となりました。

【基本金組入額】

第1号基本金(学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実に用いられるものを組み入れ

(表2) 消費収支計算書 (単位: 百万円)

消費収入の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)
学生生徒等納付金	4,094	4,093	4,151	△ 58
手数料	94	94	90	4
寄付金	201	211	70	141
補助金	511	515	489	26
資産運用収入	67	74	59	15
資産売却差額	0	0	26	△ 26
事業収入	87	87	91	△ 4
雑収入	145	169	252	△ 83
帰属収入合計	5,201	5,246	5,232	14
基本金組入額合計	△ 462	△ 403	△ 535	132
消費収入の部合計	4,739	4,842	4,697	145

消費支出の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)
人件費	3,095	3,122	3,093	29
教育研究経費	1,448	1,428	1,341	87
管理経費	366	355	333	22
借入金等利息	3	3	4	△ 1
資産処分差額	12	11	15	△ 4
徴収不能引当金繰入額	—	0	0	0
消費支出の部合計	4,924	4,922	4,788	134

当年度消費収入(△支出)超過額	△ 184	△ 80	△ 91	11
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 977	△ 977	△ 886	△ 91
基本金組入額	—	41	—	41
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 1,162	△ 1,016	△ 977	△ 39

帰属収支差額	277	323	444	△ 121
--------	-----	-----	-----	-------

る)へ1億22百万円を組入れました。主な内訳としては、文学部1号館改修工事による建物の増加(49百万円)や新社交館バリアフリー化整備工事による構築物の増加(14百万円)などの固定資産取得によるもののほか、借入金返済分42百万円も組入れています。

また、第3号基本金(奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる)へ2億81百万円を組入れました。このうち、1億44百万円は、遺贈による新たな奨学金基金設置に伴う組入れです。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比1億2百万円増の48億42百万円となりました。

(2) 消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出(2億14百万円)を控除し、退職給与引当金繰入額(2億43百万円)を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額(計3億18百万円)を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、ほぼ予算どおりの49億22百万円となりました。

なお、本年度はヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として2億36百万円の借入を行ったことにより、基本金を41百万円取り崩しています。

4. 貸借対照表

2014年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

(1) 資産の部

資産の部は、前年度末比3億51百万円増の184億43百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定資産】

土地・建物・備品などの有形固定資産は、ヴァージニア・クラークソン記念館の完成やコミュニケーションセンター改修工事、文学部1号館改修工事等により、前年度末比83百万円増の89億5百万円となりました。

その他の固定資産は、第3号基本金引当資産を積増したことなどにより、前年度末比3億8百万円増の67億21百万円となりました。

その結果、固定資産は、前年度末比3億92百万円増の156億27百万円となりました。

【流動資産】

流動資産は、定年退職者が多かった前年度より私学退職金財団交付金収入等の未収金が減少したことなどから、前年度末比41百万円減の28億16百万円となりました。

(2) 負債の部

負債の部は、前年度末比28百万円増の29億9百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定負債】

固定負債は、日本私立学校振興・共済事業団からの新規借入(2億36百万円)と短期借入金への振替(1億15百万円)などにより、前年度末比1億50百万円増の18億56百万円となりました。

【流動負債】

流動負債は、大学入学金を40万円から20万円に減額したことなどにより前受金が1億11百万円減少したこと等により、前年度末比1億23百万円減の10億52百万円となりました。

(3) 基本金の部

基本金の部は、前年度末比3億62百万円増の165億50百万円となりました。これは、第1号基本金の増加(81百万円)、第3号基本金の増加(2億81百万円)によるものです。

(4) 消費収支差額の部

消費収支差額の部は、支出超過が前年度より39百万円拡大し、10億16百万円の繰越消費支出超過となりました。

(表3) 貸借対照表 (単位: 百万円)

資産の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
固定資産	15,627	15,235	392
有形固定資産	8,905	8,822	83
土地建物	1,323	1,323	0
構築物	4,556	4,268	288
教育研究用機器備品	556	532	24
その他の機器備品	463	441	22
図書	20	23	△ 3
車両	1,984	1,961	23
建設仮勘定	0	0	0
	—	271	△ 271
その他の固定資産	6,721	6,413	308
教育研究用ソフトウェア	28	38	△ 10
その他のソフトウェア	21	17	4
電話加入権	3	3	0
有価証券	406	406	0
差入保証金	3	3	△ 0
出資	20	19	1
貸与奨学金	260	277	△ 17
退職給与引当特定資産	1,484	1,456	28
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存引当特定資産	103	81	22
第3号基本引当資産	1,251	970	281
その他	0	0	0
流動資産	2,816	2,857	△ 41
現金預金	2,642	2,599	43
修学旅行費預り資産	16	17	△ 1
未収入金	146	229	△ 83
前払金	9	10	△ 1
資産の部合計	18,443	18,092	351

負債の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
固定負債	1,856	1,706	150
長期借入金	366	246	120
退職給与引当金	1,484	1,456	28
長期未払金	5	4	1
流動負債	1,052	1,175	△ 123
短期借入金	115	102	13
未払金	137	156	△ 19
前受金	710	821	△ 111
預り金	73	77	△ 4
修学旅行費預り金	16	17	△ 1
負債の部合計	2,909	2,881	28

基本金の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
第1号基本金	14,925	14,844	81
第3号基本金	1,251	970	281
第4号基本金	373	373	0
基本金の部合計	16,550	16,188	362

消費収支差額の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△1,016	△ 977	△ 39
消費収支差額の部合計	△1,016	△ 977	△ 39

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	18,443	18,092	351

II. 2015年度神戸女学院事業計画

1. 今後の運営方針及び2015年度予算編成について
神戸女学院は創立以来、キリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹に、リベラルアーツ&サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。社会における女性の活躍に一層の期待が高まる中、本学院には教育理念を堅持しつつ改革を押し進め、女子教育の使命を高めて行くことが強く求められています。2015年度もリベラルアーツ&サイエンス教育の充実、学習支援環境の整備等を取り組みの柱として教育改革の実現に資する事業計画を推進します。

収入面では2015年度から募集力強化を目的として、大学入学金を20万円(現行40万円)に減額したうえ、音楽学部を除いて新入生の授業料を年額5.5万円増額改定します。この学費改定他により、翌年度の学生生徒等納付金収入は前年度当初予算比で1億61百万円減の39億64百万円となり、事業活動収入〔旧: 帰属収入〕では97百万円減の48億86百万円となる見込みです。しかし、新たな授業料が全学年に適用される2018年度に、学生生徒等納付金収入は学費改定前の水準まで回復する見通しです。国の財政状況等による補助金の固定化また超低金利下での資産運用等厳しい背景がありますが、引き続き収入源の複線化に努めていきます。

支出面では、文学部2号館45教室の整備、理学館や岡田山ロッジほか複数建物のトイレ改修、さらに第2体育館の空調設備工事など施設関係整備に予算措置を行い、学生、生徒の学習、生活環境の利便性向上を図ります。また恒常的に大きな予算を要する学生募集や情報環境整備については、特に投資効果を検証しながら計画的に措置していきます。重要文化財に指定されたヴォーリス設計の校舎群の保存維持をはじめ、今後のキャンパス構想については10年後の創立150周年を視野に入れ中長期整備計画の立案に着手します。人件費、教育研究経費、管理経費、施設・設備費を柱とする翌年度の事業活動支出〔旧: 消費支出〕は合計で48億71百万円となる見込みです。結果2015年度の単年度収支に相当する基本金組入前当年度収支差額〔旧: 帰属収支差額〕は僅少の14百万円に留まり、基本金組入後の翌年度繰越収支差額〔旧: 翌年度繰越消費支出超過額〕は14億99百万円に拡大する見込みです。以上のように厳しい収支状況が続きますが、競争力の維持、向上は欠くことができず、今後とも教育、研究、学習支援、学生・生徒募集、管理運営等の多岐に亘る事業計画に的確に予算措置し、併せて予算執行規律の健全化を強めていきます。

なお、今般約40年ぶりに学校法人会計基準が改正

され、2015年度予算から新基準が適用されます。学校法人会計固有の「基本金」等、根本的な体系に変更はありませんが、学校法人の財務基盤等についてステークホルダーの理解を促すことを目的とした改正です。従来の資金収支計算書に加えて「活動区分資金収支計算書」を新設、また「消費収支計算書」が「事業活動収支計算書」に変更されました。資金の流れを「教育」「施設設備」「財務」の活動別に区分し、また事業活動の収支源泉を「教育」と「教育外」、あるいは「経常」と「特別」に峻別し、よりの確な経営判断へ導くための体系となっています。

2. 2015年度予算書

以上の計画を受けて、2015年度資金収支予算書は、表4、事業活動収支予算書は表5のとおりとなりました。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。なお、前年度繰越支払資金、前年度繰越収支差額は、予算編成時の額であり、決算金額とは異なります。)

(表4)

2015年度資金収支予算書

(単位：百万円)

収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	3,964
手数料収入	94
寄付金収入	59
補助金収入	491
資産売却収入	—
付随事業・収益事業収入	56
受取利息・配当金収入	72
雑収入	147
借入金等収入	—
前受金収入	687
その他の収入	167
資金収入調整勘定	△ 801
前年度繰越支払資金	2,600
収入の部合計	7,538

支出の部	
科 目	金 額
人件費支出	3,010
教育研究経費支出	1,152
管理経費支出	346
借入金等利息支出	2
借入金等返済支出	115
施設関係支出	115
設備関係支出	115
資産運用支出	143
その他の支出	169
資金支出調整勘定	△ 110
前年度繰越支払資金	2,479
支出の部合計	7,538

(表5)

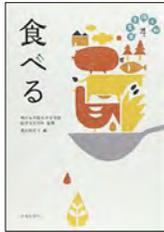
2015年度事業活動収支予算書

(単位：百万円)

		科 目	金 額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,964	
		手数料	94	
		寄付金	41	
		経常費等補助金	475	
		付随事業収入	56	
			雑収入	147
			教育活動収入計	4,779
	事業活動支出の部		人件費	3,022
			教育研究経費	1,456
			管理経費	379
		徴収不能額等	—	
		教育活動支出計	4,857	
		教育活動収支差額	△ 77	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	72	
		その他の教育活動外収入	—	
		教育活動外収入計	72	
	事業活動支出の部		借入金等利息	2
			その他の教育活動外支出	—
			教育活動外支出計	2
			教育活動外収支差額	69
			経常収支差額	△ 7
	特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	—
			その他の特別収入	34
特別収入計			34	
事業活動支出の部			資産処分差額	12
			その他の特別支出	—
			特別支出計	12
			特別収支差額	22
			基本金組入前当年度収支差額	14
			基本金組入額合計	△ 352
			当年度収支差額	△ 337
		前年度繰越収支差額	△ 1,162	
		翌年度繰越収支差額	△ 1,499	
		(参考)		
		事業活動収入計	4,886	
		事業活動支出計	4,871	



新刊紹介



神戸女学院大学文学部総合文化学科 監修
景山佳代子 編

『日常を拓く知4 <食べる>』

世界思想社 2015年2月刊
192頁 1,800円+税

大学新生を対象に学問する楽しさを伝えるシリーズ「日常を拓く知」(全6巻)の中の1冊である。本の構成は非常に良く練られており、日常の「食べる」行為に関連する多様な問題点を浮き彫りにし、自然に読者を知の世界に誘う。第1部では3つの書籍について、教員がそれぞれの立場から、取り上げた著作をどう読み解き、どのような問題点を見出したかを対話形式で語る。読者は「食べる」行為から広がる様々な知の世界に気づかされる。第2部では第1部で登場した教員が宗教学、地域社会学、文学、臨床社会学、社会福祉学、国際関係論の立場から、自らの専門分野における「食べる」ことに関連した問題点について、考えの組み立て方を示しながら、論じていく。現代の大学新生はインターネットを介した膨大な情報量と情報伝播速度の圧倒的な速さの前で、ただただ茫然として、どのように頭を整理して、自分の考えを組み立てればいいのかかわからないように見える。評者が大学新生の頃(パソコンなどなく、テレビを持つ下宿生も少なかった)、学生は入手しやすい新書と文庫本などをポツポツと読んで、少ない情報をボチボチつないでいくことで「自分で考える」ことを身につけていった気がする。本書が優れているのは、学生が真似ることができるように、どのようにして論を組み立てるのかを丁寧に示し、茫然としている大学新生に「自分で拓いていく道があるよ。」と指針を示している点である。第3部は「食べる」に関連する7つのテーマについてのブックガイドとなっており、「食べる」ことに関連する問題に興味を持った学生が次の1歩を踏み出す手助けをしている。いろいろなことについて、自ら考えていくことが求められる大学新生が最初に読むべき1冊であろう。

(環境・バイオサイエンス学科教授 寺嶋 正明)

CD紹介



辻井 淳(音楽学科准教授)

『CAVATINA』

OTAKEN RECORDS 2014年8月録音
2,500円(税込)

神さまの贈りもの

音楽は不思議である。そして自由である。曲が生まれるとき、そこにはたしかに作曲者の想いがこめられ描かれているはずである。しかしたいていの場合その想いを知るものはいない。たとえば献曲に込められた作曲者の想いとして、また当時の作曲者の心境とともに時代背景が記されたものなどが大きな手がかりとなる。譜面には音の強弱を示す記号から“優美に”“壮大に”“激情的に”といった発想記号など多くの様々な道標が示されている。以前あるご縁からピアノやソプラノ、コーラスのための曲を一気につくり、クラシックの殿堂といわれるホールで演奏いただいたことがある。その時の楽譜には記号が一切ない。実際のところは素人であるが故の結果でもあるのだが音楽家のみなさんは驚かれ苦労されたことと思う。あるピアニストから連絡をいただき、曲全体に込めた想い、さらに何カ所かについてそこに込めた想いをお話した記憶がある。演奏会当日、そこには私の想いを遙かに超えた表情豊かな演奏があった。そしてその時すでにこの曲は私の手から離れ、一人歩き始めた。初演頂いた先生、実は本学の佐々先生、不思議なご縁である。

さて『CAVATINA』、多くの小作品を奏者はその譜面から何を感じ演奏されているのだろうか。私の心を惹きつけて離さないでいるのは辻井先生のヴァイオリンと藤井先生のピアノが織りなす心もようである。時に妖精であるピアノを追いかけるヴァイオリンは純粹無垢な少年であったり、時に心揺れる青年をそっと見守る大地であったり、互いを誘う幻想の世界であったり、壮大に、優美に、激情的に、華やかに、私にはそんな風感じられた。これもまた自由である。だから音楽は一人ひとりの心に響く。神さまの贈りものである。是非みなさんも Tsujii World の中で心の扉を開けてみませんか。

(心理・行動科学科准教授 水本 誠一)

その他の新刊一覧

難波江和英（総合文化学科教授） 他著
女性学インスティテュート 編
『語り継ぐ女性学
一次代を担う女性たちへのメッセージ』
（御茶の水書房）

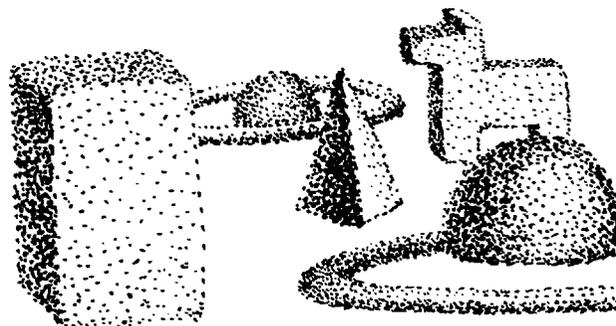
<CD 紹介>

辻井 淳（音楽学科准教授・ヴァイオリン） 他
「メンデルスゾーン&エネスク 弦楽八重奏曲」
（マイ・ハート弦楽八重奏団）

六甲セミナーハウス閉鎖のお知らせ

在校生のゼミ合宿やクラブ合宿等にご利用いただきました六甲セミナーハウスは、2015年3月末をもって閉鎖いたしました。1977年4月の開館以来、長い間のご利用ありがとうございました。

（総務課）



史料室の窓(37)

デフォレスト先生ゆかりの教会

— 神戸女学院とキリスト教教育 —

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

神戸女学院はミッションスクールです。毎日礼拝が守られていることからわかるように、創立時からキリスト教に基づいた人格教育を行なっています。そしてキリスト教の信者であってもなくても、日曜日には教会に行くことを奨励しています。新入生には宗教センターから近くの教会がわかるリストが配られますが、その中のある教会は第5代院長デフォレスト先生 (Miss Charlotte Burgis DeForest) にゆかりのある教会です。

神戸女学院は寄宿学校としてスタートしました。教室での学びだけでなく、日常生活のさまざまなところから宗教的感化を与えられるようにと考えたからです。日曜日には学校は休みになりますが、休みだから何をしてもいいということではありませんでした。休みなのは教会に行くためだったからです。古い同窓生の方によると、日曜日の午前中は教会に行く以外には外出禁止で、たとえ教会に行かずに寮の部屋に残っていたとしても、勉強さえしてはいけないということでした。寮生は隊をなして先生方に引率されて整然と教会に行きました。教会では奏楽のオルガンを弾いたり、日曜学校のお手伝いをしたりして奉仕を行ないました。教会に行くことは大切な学校教育の一環でした。

創立時から神戸女学院生が通っていたのは、創立者の先生方を日本に派遣した海外伝道団体アメリカンボード (American Board of Commissioners for Foreign Missions) から派遣された宣教師たちが神戸元町に設立した摂津第一公会 (現・神戸教会) でした。この教会ができるまで神戸には日本人のための教会はなく、外国人のために設立された教会 (現・ユニオン・チャーチ) での英語による礼拝に日本人も出席していました。神戸女学院の前身の「私塾」時代の生徒たちも通っていました。神戸教会の設立は1874年、神戸女学院の創立はその一年後、このように神戸女学院と教会は誕生の時から強い結びつきを持っていたのです。

4代目院長・ソール先生 (Miss Susan Annette Searle) は特に生徒の信仰生活に熱心でした。1888年に神戸教会が現在の場所に新築移転して学校との距離がさらに近くなり、教会に通いやすくなりました。



山本通時代のソール先生の礼拝

た。この頃には聖日毎の礼拝の出席者の半分はソール先生以下学校の教職員・生徒がこれを占め、日曜学校その他の施設のために奉仕もし、教会側からも歴代牧師が学校の宗教教育に協力していました。

こうした教会との協力によって、学校の宗教教育は反動的国粋主義が強くなる時代にあっても守られてきました。しかし学校が女子大学設立を夢見て岡田山に移転したことで、近くに教会がなくなり、時の院長・デフォレスト先生は宗教生活指導に不便を感じるようになりました。そこで先生は学校の中に教会を持つことも考えられたそうです。けれども、そうすると参集する信者の範囲が限定され、生徒の社会的訓練が不便になります。それよりも学校近くに一般信者も集まる教会を作って、そこに生徒を行かせた方がよいと判断し、関西学院と共同で教会を設立したいと希望しましたが、それは叶いませんでした。しかし、1938年、日本組合教会が一住宅を借りて甲東地区に講義所を開いて日曜学校と聖書の講義を始めたことを知った先生は、組合教会に寄附をして学校の近くに新しい教会を設立してほしいと要望したのです。そして誕生したのが現在の甲東教会です。1943年4月、会堂兼幼稚園舎の献堂式が行なわれ、神戸教会に代わる神戸女学院の教会となりました。甲東教会はデフォレスト先生が作った教会ではありませんが、先生の熱意が生んだ教会といえるのではないのでしょうか。

<オフィスの宝物>

入学センター・広報室の宝物

入学センター・広報室では入試の実施や、高校生向けのオープンキャンパス、大学案内などの広報誌の作成、公開講座の開催などの仕事を行っています。これらの仕事のサポートをしてもらう学生のチームがあり、このチームが入学センター・広報室の宝物です。

そのチームは「学生スタッフ」と言います。「学生スタッフ」は2006年に始まり、今年で10年目を迎えました。1年間の登録制で、毎年春に募集・選考を行っているのですが、熱意ある学生からの応募が多く、年々選考が難しくなっています。応募者の中には「学生スタッフに憧れて入学し、自分も先輩のように受験生をサポートしたい」という声も増え、これは先輩スタッフの活躍のおかげだと思います。

「学生スタッフ」の主な仕事は神戸女学院の魅力を発信することです。私はこの「学生スタッフ」の姿が神戸女学院の魅力のひとつだと思います。スタッフのひとりひとりが神戸女学院での学びや学生生活、キャンパスなどを受験生・保護者に自分の言葉で伝えています。オープンキャンパスの来場者アンケートでは「学生みなさんのにこやかな挨拶、丁寧な対応が気持ち良かったです。」といったお言葉をたくさんいただいています。

「学生スタッフ」の活動に関わったすべての学生が入学センター・広報室の宝物です。今はまだ140年の神戸女学院歴史の中では短い活動期間ですが、これからもみんなの思いを繋げていけるように学生と共に歩んでいきたいと思っています。

(入学センター・広報室)



オープンキャンパスで高校生を案内する学生スタッフ

音楽学部事務室の宝物

正門を入り木々を見ながら登って行ったところに重要文化財建造物に指定された音楽学部1号館という建物があります。早朝から楽器を演奏する音や声楽の歌唱の聞こえてくるその建物の中に音楽学部事務室はあります。

音楽学部の授業はこの他に音楽学部2号館やジョージ・オルチン記念音楽館、エミリー・ブラウン記念館などで行われています。

音楽学部事務室の宝物とは何でしょうか。様々な個人レッスンや合唱、和声学などの授業を行う教室のある音楽館でしょうか。それとも素敵な音色を奏でる各種楽器でしょうか。もちろんそれらも大切な宝物ですが、私は事務室の1番の宝物は学生自身だと考えています。

実際にミス一つなく演奏を完遂するコンピュータよりも、日によって演奏や演技にムラがあり時にはミスもあるけれど、日々輝く様々な色彩を放つ楽曲を弾いたり歌ったり身体表現したりする人間そのものが素晴らしいのではないのでしょうか。

感性に恵まれた教養のある本学学生はその宝の原石です。音楽学部事務室は、学生が教員と切磋琢磨しこれからも光り輝いていけるよう応援をしていきたいと願っています。

(音楽学部事務長)



音楽学部1号館

大 学 報 告

“Hawaii is not only about Blue Sky and Blue Sea”

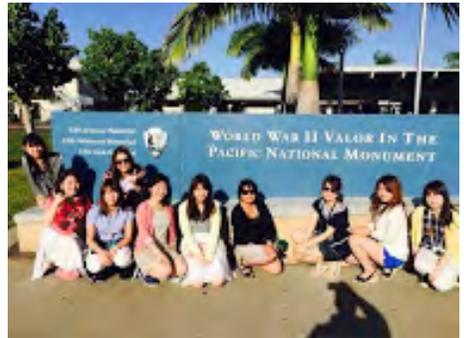
Yukino Kobayashi, Shino Kodaira, Mana Nakahara, Mari Nakanishi, Saya Nakauchi,
Yurie Omoto, Natsuki Sagawa, Chiharu Shimizu, Risa Tomiyama,
Margaret Kim and Yolanda Tsuda

2015年2月4日から13日まで、本学学生9名と教員2名が、E-237フィールドスタディの科目で、日系移民の歴史や文化を学ぶため、ハワイを訪れました。日系アメリカ人の家庭にホームステイしながら、日系一世・二世の歴史を学ぶことで、なぜ多くの日系人が今もお住んでいるのか理解することができました。私たちは、University of Hawaii/Kapiolani Community Collegeの共同プログラムの中で、人の国際移動についての講義を受け、インタビューの仕方を学んだ後、ハワイ日本文化センター、ハワイプランテーションビレッジ、老人ホーム、パールハーバーなどを訪れました。

日本からの最初の移住は1868（明治元）年で、移民たちは日本での貧しい生活から抜け出すために、ハワイへやってきましたが、彼らの生活はプランテーション（サトウキビ農園）での低賃金、長時間労働の下にありました。さらには、日本軍が引き起こした1941年の真珠湾攻撃のあと、日系人の中にはアメリカ軍に敵と見なされ、収容所に閉じ込められる者も、逆に志願兵としてアメリカのヨーロッパや太平洋戦線に参戦する者もいました。

これらの歴史学習を踏まえて、ハワイ在住日系二世・三世の方々にはインタビューを行い、戦前のプランテーションでの過酷な生活や、彼らの家族について話を伺いました。真珠湾攻撃の後、軍人が日系移民の生活を厳しく監視していたのですが、日系一世・二世は家族のために必死でした。彼らは「仕方がない」、「子どものために」という言葉を大切にし、過酷な労働に耐えていたことが、とても強く心に残りました。今もハワイに暮らしている三世、四世たちは「おかげさまで」と、彼らの親たちに感謝して生きています。

私たちに、これまで日系移民について学ぶ機会はほとんどありませんでした。研修を通じて、世界中にいる日系移民の歴史を日本人として知る大切さに気がきました。今回私たちが学んだことを神戸女学院の仲間に広く伝えていきたいと願っています。



音楽学科舞踊専攻公演

去る3月5日、6日に兵庫県立芸術文化センターにて音楽学部舞踊専攻の第6回定期公演を行いました。

この度の公演は、2部構成で、まず1部の1作品目は1年生と2年生によるHere we are!で幕を開けました。1年生の中には、リハーサルを始めた当初なかなか振付が体に入らず苦勞した学生もいましたが、本間非常勤講師のもと2年生のサポートもあり、本番当日は力強く踊ることができました。1部の2作品目はZero bodyです。この作品は昨年の12月の卒業公演の際に4年生のために制作されエミリー・ブラウン館にて発表されました。この度、劇場でやることによってより空間の広がりを感じることができました。休憩を挟み2部の1作品目は2年生が、客員教授のモンタギュー先生振付によるibrarsiを踊りました。とても難しい音楽なため、群舞を揃えるのにかなり苦勞しましたが、この学年が持つ粘り強さとパワーでそれを克服し作品を仕上げました。2部の2作品目は3年生によるBlue snowです。体力的にかなり大変な作品でしたが、半年間練習を積み重ねた甲斐あって、最後まで緊張感のある踊りを披露することができました。そして最後の演目は、4年生のために創られた新作のFor Jamesです。今年の4年生に相応しく難度の高い振付でしたが、2日間に渡り期待通りに素晴らしい、観客を魅了する舞台を実現してくれたと思います。

(音楽学科教授 島崎 徹)



For James

ネザーランド・ダンス・シアター合格

この3月に、本学音楽学部舞踊専攻を卒業された三崎 彩さんが、オランダのハーグにあるコンテンポラリーダンスカンパニーの名門である、「ネザーランドダンスシアター2」のオーディションに合格され、5月から入団されました。このカンパニーはかつて、世界的振付家のジリ キリアンさんがディレクターを務め、コンテンポラリーダンスの歴史に多大なる影響を及ぼした舞踊団で、現在日本のダンス界にて活躍されている金森 穰さんや中村 恵さんなどが在籍していた舞踊団としても知られています。

約300名の中から5名がオーディションに合格しましたが、その中の4名はすでに研修生として在籍していた方々で、外部からの合格者は三崎さんただ一人ということでした。三崎さんのデビューとなる舞台は、7月にドイツのシュトゥットガルトで予定されているネザーランドダンスシアター1の公演の「SPIRITWALKING」という作品で、この原稿を書いている5月の時点で、もう既に毎日リハーサルに励んでいるという知らせが私のところに届いています。ちなみにこのカンパニーで3年前までディレクターを務めておられた、ジム ヴィンセントさんという方は、今はウォルトディズニーのエグゼクティブクリエイティブディレクターで、世界各国にあるディズニーのショーやパレードなどの責任者であることから、このカンパニーの与える影響力の強さを知ることができます。三崎さんの将来が楽しみです。

(音楽学科教授 島崎 徹)



オランダでの生活を始めた三崎彩さん

沖縄平和学習の旅

宗教センターはこれまで沖縄や長島（元ハンセン病患者療養施設）、釜ヶ崎（大阪市西成区）における現地学習の機会を学生に提供してきました。今回はとくに「辺野古」の状況を見聞するという目的で「沖縄平和学習の旅」を企画しました。現地では、以前の企画でもお世話になった沖縄キリスト教センターの職員2名の方々に引率していただきました。2泊3日（2月18日～20日）という短い滞在でしたが、旧海軍司令部壕、佐喜眞美術館、嘉数高台（普天間基地の近く）、南風原陸軍病院壕、摩文仁の丘にある平和祈念公園、対馬丸記念館、そして辺野古新基地建設阻止行動テント村、キャンプシュワブゲート前（座り込み抗議活動）などを訪れ、沖縄の過去と現在を肌で感じてきました。

参加した学生11名は学科や学年もいろいろで、沖縄訪問についても、初めての者、平和学習で複数回訪れた者、観光旅行で来た者など多様でしたが、それぞれの目線で沖縄を見つめていました。事実が意図的に隠された偏向報道も見られる今日だからこそ、自分で確かめることが極めて重要になります。とくに辺野古が普天間からの単なる「移設」ではなく、新たに拡大した基地や軍港になることは本土の報道では殆ど触れられていません。しかし現地を訪ねるとそれは明らかであり、沖縄県民の怒りの理由を知ることができました。

今後も「事実」を確かめつつ、苦しむ隣人に寄り添う契機となる企画を提供したいと思っています。

（宗教センター 中野 敬一）



「摩文仁の丘」（糸満市）にて撮影

「美容式」[®] アミノ酸ゼリー、完成

昨年新緑のころ、共同研究者である東京大学元教授の大谷勝先生と研究打ち合わせ中、「研究成果を商品化しよう」という話題になりました。近年、大学のブランド商品が次々に販売され、注目されています。中でも近畿大学の近大マグロは、大学の知名度を上げ、学生募集にも貢献しています。

神戸女学院大学は「英語の女学院」の印象が強く、理系学科の存在感が強くありません。神戸女学院大学の環境・バイオサイエンス学科では、科学を深く学べ、知的好奇心を満足させる研究環境が整っていることをアピールするチャンスだと思い、研究成果を基にしたアミノ酸ゼリーの商品化を提案しました。

しかしながら、大学には事業化を進めていく部署もなく、商品化の話は全く進行しませんでした。私も半ば諦めていましたが、粘り強く賛同して下さった方々のお力添えで、商品化へと踏み出すことができました。

作成過程では、ゼリー工場の視察、印刷の立ち会いなど、私にとっては初めてのことばかりで、刺激的な経験をさせていただきました。大谷先生をはじめ、ゼミの学生、大学教職員の方、ゼリー工場の方、デザイナーの方、印刷会社の方々の誠意と熱意に支えられ「美容式」[®] アミノ酸ゼリーが誕生しました。心より感謝申し上げます。

女学院ハチミツなど材料にもこだわり、美と健康を支えるアミノ酸を配合したおいしいゼリーです。まずは最初の一步を踏み出しましたことをご報告いたします。

（環境・バイオサイエンス学科教授 高岡 素子）



商品開発した高岡ゼミの学生たちと

家庭会大学部会総会報告

個人情報保護のため、
30ページ目から31ページ目は削除しています。

大学春季宗教強調日礼拝 (創立者記念日礼拝)

創立者イライザ・タルカット先生の誕生日である5月22日、春季宗教強調日礼拝ならびに創立者記念日礼拝として、学院チャプレンの飯 謙先生に「創立者イライザ・タルカット先生(1836-1911)―神戸女学院建学の祈り―」と題し、ご講演して頂きました。タラント(才能、たまもの、能力)を隣人との喜びの為に一生懸命用いる人生を過ごされたタルカット先生の生涯を、スライドを通してお話しされました。この度、先生のパスポート申請書も発見され、肉筆による資料も拝見できました。「他者の呼びかけに应答する精神的な開放性」「たゆまぬ自己鍛錬」「自立(自律)性へのこだわり」という私達へ残して下さった貴重な財産を大切に、先生のように自ら隣人の為に自発的に尽くし、真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指す神戸女学院のミッションステートメントについてお話しされました。新生は初めてタルカット先生のことを学び、礼拝に集った在校生、教職員も改めて先生の思いを胸に刻んだ日となりました。「何によらず手をつけたことは熱心にするがよい」(コヘレトの言葉9章10節)という先生の息吹の籠った学校で学んでいることを心に刻み、今年、創立140年を迎える学院でタルカット先生と対話をしながら将来の生き方を考える学院生活を送ることを覚えた日でもありました。最後に、飯チャプレンより「隣人との喜びの為に立ち上がる者となるよう、そして自らを捧げていくことができる大切な課題と出会うことができるように」とお祈りが捧げられました。

この一週間は愛校週間として礼拝をまもりました。21日には神戸再度山にあるタルカット先生の墓前にて礼拝を行い、神戸女学院最初の敷地である神港学園にも立ち寄りました。当時の地図を拝見しながら思いを馳せました。140年経った今、こうして歴史の重みを感じる学校で学べたことを嬉しく思うと同時に、これからも大切に守っていかねばいけない学院の精神を深く刻みました。今年も建学の精神について良い学びの時を持つことができ、深く感謝いたします。

(チャプレン室)

2014年度 大学図書館報告

1. 統計

・蔵書数

	2014年度受入	2014年度末現在
和書	2,811冊	253,595冊
洋書	912冊	169,830冊
合計	3,723冊	423,425冊
AV資料	91点	3,952点

・2014年度貸出状況

学 生	教職員	外来者
35,263冊	4,869冊	1,195冊

・2014年度相互利用

	文献複写	図書貸借	閲覧	照会
依頼	838件	115件	16件	13件
受付	461件	34件	13件	17件

2. 受入図書

・教育資料費による購入図書

Native American Writing (全4巻) ほか
計6タイトル

・寄贈図書

『湖畔の聲』ほか 計264冊

3. その他

・クラス別ガイダンス 38回実施

(大学図書館課長)

2015年度 大学・大学院入学試験結果概要

●大学

学部	学科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	140	177
	総合文化学科	200	228
音楽学部	音楽学科	46	51
人間科学部	心理・行動科学科	90	98
	環境・バイオサイエンス学科	80	90
合計		556	644

●大学〔編入学（3年次）〕

学部	学科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	0

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻（英文学コース）	5	3
	英文学専攻（通訳・翻訳コース）	8	3
	比較文化学専攻	5	3
人間科学研究科	人間科学専攻	10	10
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	9
合計		35	28

●大学院（博士後期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	1
	比較文化学専攻	2	0
人間科学研究科	人間科学専攻	2	0
合計		6	1

2015年度 在籍学生数

(2015年5月1日現在)

●大学

学部・学科 (専攻)	文学部			音楽学部	人間科学部			合計	
	英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	小計		
1年	15000	177	228	405	51	98	90	188	644
2年	14000	172	217	389	35	100	99	199	623
3年	13000	160	213	373	53	96	86	182	608
4年	12000	172	232	404	38	103	93	196	638
	11000	17	19	36	2	1	3	4	42
	10000	2	4	6	1	2	0	2	9
	09000	1	0	1	0	0	0	0	1
	08000	0	1	1	0	0	1	1	2
合計	701	914	1615	180	400	372	772	2567	

●大学院修士課程・博士前期課程

学部・学科 (専攻)	文学研究科			人間科学研究科	音楽学部	合計	
	英文学科	比較文化学	小計	人間科学	音楽芸術表現		
1年	1500	6	3	9	10	9	28
2年	1400	5	5	10	11	9	30
	1300	0	4	4	0	0	4
	1200	0	0	0	1	0	1
	1100	0	0	0	0	0	0
	1000	0	0	0	0	0	0
合計	11	12	23	22	18	63	

●科目等履修生

学部	数
大学部	5
大学院	0

●聴講生

学部	数
大学部	2
大学院	4

●博士後期課程

学部・学科 (専攻)	文学研究科			人間科学研究科	合計	
	英文学科	比較文化学	小計	人間科学		
1年	1500	1	0	1	0	1
2年	1400	1	0	1	2	3
3年	1300	1	0	1	1	2
	1200	1	0	1	0	1
	1100	0	0	0	0	0
	1000	0	0	0	0	0
合計	4	0	4	3	7	

2014年度就職決定状況

学 科	卒業生数	希望者数	決定者数	決定者数／ 希望者数	大学院 進学者数
英 文	145	130	129	99.2%	3
総合文化	198	177	174	98.3%	5
音 楽	50	26	22	84.6%	6
心理・行動	103	90	88	97.8%	9
環境・バイオ	96	77	72	93.5%	12
合 計	592	500	485	97.0%	35

(2015年4月末現在)

本学2015年3月卒業生の就職決定率は97%で、昨年を1.8ポイント上回りました。大卒の求人倍率は業界や企業規模によってかなり差はありますが、2015年卒は1.61倍と、2014年卒の1.28倍から大幅に改善し、好感感とともに企業の採用意欲は高かったことがわかります。また、2016年卒から企業の採用選考スケジュールが変更される影響で、2015年卒を前倒して採用しようとする企業が増えたこともあり、企業が新卒に求める質は変わらず高いものの、2015年卒は恵まれた就職環境にあったと言えます。

就職先業界別割合は金融・保険業が一番高く33.6%、以下、卸売・小売業16.5%、サービス業11.9%、製造業10.5%と続いています。もともと金融への就職者が多い本学ですが、今年は3人に1人が金融・保険業への就職を決定したことになります。進路決定時のアンケート調査では、就職決定先を第一志望群とする回答が3分の2を占め、多くの学生が満足感を持って就職先を決定しています。また2014年度は、久しく求人をいただいていた企業からの求人が相次いだことも特徴です。本学に求人をいただいた背景には、卒業生たちが積み上げてきた高い実績があり、改めて本学卒業生に対する各企業の信頼の厚さを感じた1年でした。

3か月後ろ倒しとなった現4年生の就職活動は、3月から本格的にスタートしています。経団連の採用選考に関する指針では、「面接などの選考活動は8月1日以降」となっていましたが、3月のスタートと同時に、中堅中小企業を中心に選考が始まったところも少なくありません。学生の学修時間の確保という指針の目指す方向とは裏腹に、今年も長丁場になると思われる就職活動ですが、学生のみなさんが自己としっかり向き合い、それぞれに合った進路を自ら切り拓いていけるよう、キャリアセンターでは様々なサポートを行っていきます。それらを上手に活用し、目標を目指して一緒に頑張っていきたいように。

(キャリアセンター課長)

建設業

積水ハウス

製造業

アシックス/伊藤園/イトーキ/宇仁繊維/大阪シーリング印刷/サントリーホールディングス/住友電気工業/ダイキン工業/大日本除虫菊(KINCHO)/トプコン/ハイレックスコーポレーション/日立製作所/ファミリア/ヤンマー/ローム

情報通信業

岩手めんこいテレビ

運輸業、郵便業

全日本空輸/ANA 大阪空港/ANA 中部空港/ANA 成田エアポートサービス/Kスカイ/JAL スカイ大阪/大阪市交通局/上組/ケイラインロジスティックス/三菱倉庫/日本郵便

卸売業、小売業

AOKI ホールディングス/青山商事/アズワン/加藤産業/クラレトレーディング/サンコーインダストリー/三陽商会/神明ホールディング/住友商事マシネックス/ダイワボウ情報システム/布亀/阪急阪神百貨店/阪和興業/三井物産プラスチック/三菱商事パッケージング/MonotaRO/ヤナセ

金融業、保険業

みずほフィナンシャルグループ/三井住友銀行/三菱東京UFJ銀行/りそなホールディングス/池田泉州銀行/関西アーバン銀行/但馬銀行/みなと銀行/紀陽銀行/京都銀行/福岡銀行/三井住友信託銀行/尼崎信用金庫/大阪シティ信用金庫/兵庫信用金庫/SMBC 日興証券/大和証券/野村證券/アフラック/日本生命保険/住友生命保険/明治安田生命保険/損害保険ジャパン日本興亜/東京海上日動火災保険/三井住友海上火災保険/兵庫六甲農業協同組合/SMBC センターサービス

不動産業

イオンモール/積和不動産関西/三井不動産リアルティ

宿泊業

帝国ホテル/ミリアルリゾートホテルズ

教育、学習支援業

ABC Cooking Studio

医療、福祉

愛仁会グループ/大阪府済生会吹田病院/宝塚第一病院/西宮渡辺病院/淀川キリスト教病院

サービス業

インテリジェンス/エイチアールワン/春日大社/サントリーパブリシティサービス/高見(TAKAMI BRIDAL)/中央復健コンサルタンツ/日本中央競馬会/阪急デザインシステムズ/ベネフィット・ワン/読売旅行

公務

厚生労働省/兵庫県警察/奈良県/大阪狭山市/神戸市/北九州市

2015年度 キャリアサポートプログラム (予定)

◆3年生対象

- 5/27(水) インターンシップガイダンス
(学内募集)
- 6/ 3(水) インターンシップガイダンス
(就職ナビ活用編)
- 7/ 1(水) 第1回就職ガイダンス
- 7/ 8(水) 就職活動のためのセルフマネジメント
セミナー
- 7/15(水) 就活対策セミナー：
「採用選考」の流れを知る
- 7/18(土) 第1回SPI模擬試験
- 8/ 3(月)～7(金) 企業・業界研究ワークショップ
- 8/26(水)～28(金)
自己分析とコミュニケーション講座
- 9/ 7(月)～11(金) KCエアラインスクール
- 9/10(木)、11(金) 初期選考突破のための集中講
座：履歴書・エントリーシート編
- 9/14(月)～16(水) 初期選考突破のための集中講
座：SPI編
- 9/30(水) 第2回就職ガイダンス
- 10/14(水) 就活ベーシック講座：就活マナー
- 10/17(土) 第2回SPI模擬試験
- 10/28(水) 就活ベーシック講座：筆記試験
- 11/11(水) 就活ベーシック講座：「自己PR」入門
- 11/25(水) 就活ベーシック講座：履歴書
- 11/28(土) SPI数理対策講座
- 12/ 9(水) 就活ベーシック講座：
エントリーシート
- 12/12(土) 第3回SPI模擬試験（一般常識模試を
含む）
- 2016年
- 1/13(水) 就活アドバンスト講座：
グループディスカッション
- 1/20(水) 就活アドバンスト講座：面接
- 1/23(土) 就活アドバンスト講座：
グループディスカッション（実践①）
- 2/ 1(月) お勧め企業紹介セミナー：OG企業編
- 2/ 2(火) お勧め企業紹介セミナー：
学内セミナー参加企業編
- 2/ 5(金) 就活全体の総復習講座

- 2/ 8(月)～12(金) 面接体験講座
- 2/17(水) 初期選考直前対策講座：
SPIテストセンター編
- 2/18(木) 初期選考直前対策講座：玉手箱編
- 2/22(月) 就活アドバンスト講座：
グループディスカッション（実践②）
- 2/23(火) 中小企業研究セミナー
- 2/24(水) 企業・業界の選び方セミナー
- 2/25(木) 第3回就職ガイダンス
- 2/26(金) 就職ナビの使い方セミナー
- 3月以降 学内企業セミナー

◆4年生対象（前期）

- 4/10(金)、24(金) 模擬面接講座①②
- 4/15(水) 履歴書・エントリーシート対策講座
- 4/17(金) 企業研究講座①
- 4/20(月) 模擬グループディスカッション講座①
- 4月中 学内企業セミナー
- 5/ 8(金)、29(金) 模擬面接講座③④
- 5/13(水) 面接・グループディスカッション対策
講座
- 5/15(金) 企業研究講座②
- 5/18(月) 模擬グループディスカッション講座②
- 5/28(木) 就活総おさらいセミナー
- 6月、7月（日程未定） 模擬面接講座、模擬グルー
プディスカッション講座

◆3～1年生対象

- 5/28(火) 公務員ガイダンス

◆2年生対象

- 7/10(金) 進路ガイダンス
- 9/ 7(月)～11(金) プレ就活セミナー①

2016年

- 1/22(金) 就職ガイダンス
- 3/24(木)～30(水) プレ就活セミナー②

◆1年生対象

- 7/ 3(金) キャリアガイダンス

◆資格取得講座開講

- 秘書技能検定講座2級・準1級 春期・秋期 開講

<受入れ留学生報告>

日本での留学体験

イースト・アングリア大学交換留学生

日本に来る前、私はすごく緊張していました。イギリスの大学で2年間日本語を勉強していたのですが、実際に日本人と交流する自信が全然なかったからです。どのように友達を作ったらよいか、周りの人と合わなかったらどうしたらよいか、そのようなことを考えたら、私はいつも不安でした。

しかし、日本に来てみると、私は日本の生活にすぐ慣れていきました。飛行機から降りて、すぐに私のパディ達と会うことができました。その時、私は日本語をあまり話せませんでしたが、彼女達は優しく、私に分かるように話してくれました。その時、日本は私が考えていたよりもいい国だと思いました。人の礼儀も正しく、サービスもとてもよく、国もきれいで、食べ物も美味しいです。私は、日本が大好きになりました。

留学先に神戸女学院大学を選んだことは一生後悔しないです。国際交流センターのスタッフの方々、寮の先生方、皆さんにたくさん面倒をみていただきました。この1年間、私は神戸女学院大学の皆さんにすごく感謝しています。寮の生活も面白かったです。イギリスの大学の寮とは全然違います。イギリスでは掃除は掃除のスタッフがしてくれます。門限がなく自由に住むことができます。しかし、日本では全部自分で掃除をしなければいけません。日本の方が自分の将来にとって役にたつと思います。

この留学体験が終わった後も、私は、将来ぜひ日本に戻ってきたいと思っています。日本の生活がとても好きになったからです。もし、将来日本で仕事を見つめることができたら、日本にずっと住みたいと思います。日本に戻りたい理由は、日本が好きになっただけではなく、今回の神戸女学院での留学生活が私を幸せにしてくれたからです。

KCでの一年間

ボーリンググリーン大学交換留学生

私にとってこの留学経験は最高でした。この留学がもうすぐ終わることを考えたら悲しくなります。

去年の9月に留学に来るまでは、留学生活に何を期待すべきかも全然分かりませんでした。その年の夏に一度、私はボーリンググリーン大学のクラスメートと日本に来て、日本語と日本文化について勉強し、たくさん学んだと思っていました。しかし、この留学の最初の日に空港でパディさんと会った時、一生懸命日本語で話そうとしたのですが、あまり話せませんでした。パディさんの中には英語が上手な人もいましたがそれでも会話は難しかったです。歓迎会では、皆さんは本当に優しく、私にいろいろ話しかけてくれました。私も話したかったのですが、質問自体もまだ全然わかりませんでした。その時、留学生活が不安になりました。でも、皆さんは諦めずに私と交流し続けてくれました。一緒に食べたり一緒に勉強したり一緒に神戸や大阪などを観光したりしました。私の日本語はだんだん上達してきました。少し関西弁も覚ええました。皆さん、本当にありがとうございます。

先生方とIPCのスタッフの方はいつも親切で面倒を見ていただきました。授業でわからない時、先生は何度も助けてくださいました。他の例を挙げたり辞書で探したりしてくださいました。先生のおかげで私はこの作文を自分で書けるようになりました。それから、英語の授業はいつも楽しかったです。でも、ネイティブの私でも授業がときどき難しいと感じました。日本人の学生の英語のレベルがうらやましいです。私は、履修した全ての授業からたくさん学びました。

もう留学生活はあまり残っていません。半年以上終わったことが信じられません。もしこれから留学することを考えている人がいるなら、私は留学をお勧めしたいです。英語を勉強したい人は是非ボーリンググリーンに来てください。私は恩返しします。アメリカに帰ってからあと2年間勉強しなくてはいいませんが、卒業したら絶対日本に帰って来ます。また会いましょうね!

ミリアム大学

ミリアム大学での留学生活

文学部 英文学科 4年生

フィリピンのミリアム大学は、首都マニラから少し離れたケソン市という郊外に位置する女子大学です。共学の私立大学や国立大学が近接し、毎日沢山の学生で賑わっています。私は本学からの派遣留学生として約5ヶ月間、ミリアム大学で学びました。ミリアム大学には留学生も少数在籍していますが、全学生のほとんどがフィリピン人であるため、授業や放課後、大学寮での生活など一日の大半を彼らと過ごしました。

私が感じたフィリピン人の第一印象は、「大らか」「陽気」。歌やダンスが大好きで、学校や街中だけではなく、スーパーマーケットやレストランの店員までもが歌っている姿を度々目にしました。また、少々の問題に直面しても「大丈夫、どうにかなるよ」と笑顔を絶やさぬ姿が印象的でした。

普段は温厚でのびのびとした彼らですが、自らの意思や意見ははっきり主張します。それを最も身近に感じた場が大学での授業でした。授業中はどの学生も積極的に発言し、授業時間に収まらないほどに議論が白熱することも。限られた時間の中で、いかに端的かつ的確な発言をするかが求められました。

フィリピンのあたたかな気候と人々の中でゆったりと流れる時間を感じながらも、刺激を受ける日々でした。異文化に身を置き五感を通して得られた新たな価値観や視野が、今回の留学における最大の収穫です。この場をお借りして、この留学を支えてくださった方々に心からの感謝を申し上げます。



休み時間にクラスメイトと

アサンプション大学

一期生としてアサンプションに留学して

文学部 英文学科 4年生

日本を出国してアサンプションに初めて来た日のことは今でもよく覚えています。突然出発の日が決まり、気が付けばフィリピンに着いて慌しい日々が始まり…。また神戸女学院から初めて派遣された留学生なので責任感を強く感じる留学でもありました。フィリピンで見るもの全てが新しく、毎日が驚きの連続で、学校での手続き、履修の組み方、テストの受け方など日本と全く異なる為、情報を集めて日々生活をしていました。

フィリピンの授業のレベルはとて高く、学生は皆積極的に優秀で留学に来て2か月間自己嫌悪に毎日陥っていました。アサンプションの学生たちは授業中や授業以外でフィリピーノ語を話す為、彼らの会話の内容が全く理解できず本当に苦しかったです。そんな私をいつも気にかけてくれたのは同じMedia Productionの学部でクラスメートのマーガでした。マーガは日本の漫画とアニメが大好きで、留学生の私にいつも優しくしてくれました。フィリピーノ語が全くわからない私に英語でいつも通訳をして教えてくれ、簡単なフィリピーノ語を私に教えてくれました。日常生活で覚えたフィリピーノ語を使うとクラスメートや先生、寮母さんがとても喜んでくれたのをよく覚えています。フィリピーノ語を私は100パーセント理解できないけれど、フィリピーノ語を知ろうとする努力をすればみんなに伝わるのだと感じ、みんなとの距離が近くなったのがわかりました。半年という期間は非常に短いですが有意義な留学生生活を過ごすことができました。この一生ものの経験をこれからの私の人生に活かしていきます。



Finalが終わり、マーガたちと Shakey's でランチ

<中期英語留学報告>

チャタム大学

挑戦と感謝の心

文学部 英文学科 3年生

私は自然が豊かで優しい人たちに囲まれた街、ペンシルベニア州ピッツバーグのチャタム大学に約7か月間留学しました。私はこの留学で挑戦することの大切さと、感謝の心を学びました。アメリカでは周りがすべて英語という刺激的な環境で、毎日が新鮮でした。留学で得たことは、英語力の向上と自分自身の成長以上に大きなものでした。10か国以上の留学生が集まるキャンパスでも、英語を話すことで一つになり、お互いの文化を共有できました。英語を使ったコミュニケーションにより世界が広がる素晴らしいさを知りました。それは留学という挑戦をしたからです。

留学によって感謝の心も学びました。心優しいルームメイト、先生、クラスメイトなど、多くの方々に支えてもらい、励ましてもらいました。日本で応援してくれる家族、友達など、自分の回りにいる人たちみんなに感謝をしようと思うようになりました。日本に帰る日が近づくとつれ、「チャタム大学で出会った友達、先生とみんなで過ごせる時間は今しかないのだ!」ということを実感しました。その時、今自分が生きていること、この一瞬一瞬にも感謝しようと思えるようになりました。これからもアメリカで出会った人々を大切に、いつも感謝の気持ちを持ちながら、常に新しいことに挑戦し続けていこうと思います。留学はグローバルかつ大きな人間に成長させてくれる素敵な機会です。みなさんぜひ第一歩を踏み出してみてください。



ブラジルの友達とチャタム大学にて

<中期海外研修報告>

クイーンズランド大学

最高の学び・友達・インターンシップ

文学部 英文学科 4年生

約7か月間、オーストラリアのクイーンズランド大学での語学留学は本当に素晴らしいものでした。

最初の6か月の語学学校での生活では、授業の最初に行われるディスカッションのために、毎日ニュースを見るという習慣がつかまりました。クラスメイトは様々な国籍で考え方も異なり、積極的な意見の発言に圧倒されそうになりましたが、いつも彼らに負けないよう自分の意見を大切にしていました。

この留学で最も大変だった、また最も自分が成長できたのは、女性ファッション店でインターンシップをさせていただいたことです。初日は、アクセサリーの分類作業を任されました。簡単とはいえ、膨大な量なので、諦めそうになりましたが、丸1日かかりで種類別に分け、ラベルも貼り番号順に並べると、この配列わかりやすくいいねと言っていました。

次の日からはオンラインのパッキング、その次の日には繊維テスト、輸出入の資料作成と発注、さらに接客、電話対応、モデルさんの撮影のお手伝い、カタログ作り等、他のスタッフさんと同じように働いていました。仕事をする上で、問い合わせのお客様や会社名、電話番号、要件を正確に聞き取り、ボスに伝えなければならないので、ビジネスにおいてリスニングの重要性を実感しました。

インターンシップの方々とは今でも連絡を取り合うほど、良い関係です。年齢国籍問わず様々な人々との出会い、海外で仕事ができたと自信は一生の宝です。



一緒に勉強したクラスメイトと

カリフォルニア大学アーバイン校

夢への第一歩

文学部 英文学科 3年生

以前から異国の地で新たなことに挑戦してみたいと思っていた私は、今回、カリフォルニア大学アーバイン校へ留学しました。留学生活は毎日が「発見の連続」で、非常に刺激的でした。その中で、私が留学中に最も大切だと思った点は柔軟な考えを持つことです。私の住んでいたアーバインという街はとても移民の方が多く、実際に私が1か月間お世話になったホストファミリーはベトナム系アメリカ人でした。アメリカに居ながらベトナム文化を学ぶことは新鮮で、移民の国ならではの魅力だと思います。また、語学学校で出会う友達や生活を共にしていたルームメイトたちとの文化の違いも多く、沢山の個性的な考え方や価値観に出会いました。その際、相手の考えを自分の持つ価値観とで比較し、甲乙をつけるのではなく、お互いを思いやり、尊重することを常に心がけました。沢山のユニークな考えは私の新たな発見に繋がり、より柔軟な考えをもつきっかけとなりました。どこで生活するにあっても、柔軟性は、人々と密接に繋がるためには必要不可欠な要素ですし、これからもこの柔軟な考え方を大切にしていきたいと思います。

留学生活で過ごした約7か月間は、語学力の向上とともに、沢山の「気づき」を与えてくれる貴重な機会となりました。今回の留学を夢への第一歩とし、いつかまたアーバインで恩返しができるように今後も充実した生活を送っていききたいと思います。



友人のホームステイ先の家族とのお食事

<語学研修報告>

ヨーク大学

英国留学を振り返って

文学部 総合文化学科 2年生

私は春休みの一ヶ月英国ヨーク大学での語学研修に参加し充実した留学生活を送りました。

大学では神戸女学院だけのクラスで私達の英語レベルに合わせた授業を受け少しずつ上達できました。日本では経験したことがない Video project, Research project といったアンケート調査の様なグループワークを通して現地の方々と直に触れ合う良い機会を得ました。先生方もとても親切で、私達が理解できなかった時は時間をかけて簡単な単語を使い説明してくださいました。また初めてのホームステイで色々不安だったのですが、先生がとても親身になってホストファミリーとのコミュニケーションのとりかたや小さな悩みなども聞いてくださり、おかげでホスト家庭でも良い人間関係を築けました。

放課後には国際交流の場に参加し多くの刺激を受けました。中国からの生徒たちは自分達の間でも普段から英語でコミュニケーションをとるようにしていました。日本人の私達は間違えることに対する恐怖心を抱きすぎだと感じました。私達は普段現地では日本語で話してしまっていたため帰国した今、もっと英語だけの環境にしておけばと反省しています。

現地では積極的に学生と交流することによって多くの友人ができました。国を超える友情を育むことができ、将来にも生かせ、また、一生記憶に残るような経験をする事ができました。神戸女学院の先生方をはじめこの研修に参加する機会を与えてくださった皆様に感謝しています。



お世話になった担任の先生と

クイーンズランド大学

語学研修を振り返って

文学部 総合文化学科 4年生

私は春休みの5週間、オーストラリア・クイーンズランド大学での語学研修に参加しました。今回のオーストラリア研修は私に様々なことを考えさせてくれるきっかけとなりました。

オーストラリアに着いてから、ホームステイ先が手違いで変わってしまうというトラブルがあったのですが受け入れ先の方が本当に優しい方で毎日充実した生活を送ることができました。最初は全くコミュニケーションをとることができず、たくさん話しかけてくれるのにも関わらず、何を言われているのか分からない、聞かれたことに対する答えだけしか返すことができない自分にもどかしさを感じていました。今思えば“この人たちともっと会話をしたい”という気持ちが自分の英語力を上げようと思ったきっかけになったのではないかと感じます。また、この5週間を通して、私はたくさんの人の優しさに触れ、また、クラスメートを通して様々な文化を知ることができました。そして、外国人である母の気持ちもわかるきっかけとなりました。

最後に、両親、ホストファミリー、5週間共に過ごしたクラスメートや日本から応援してくれた友人に本当に感謝しています。オーストラリアで出会った人々は私にとって貴重な出会いです。就職活動が本格的に始まり、不安もたくさんありますが、きっとこれから出会う人たちが私の人生において貴重な存在になるでしょう。今回の研修で培った視野の広さを今後活かしていきたいです。



5週間一緒に過ごしたクラスメート

ワイカト大学

NZでの語学研修

文学部 英文学科 3年生

一度高校生の時にNZに行って以来、ずっともう1回行きたかったのがこの研修に参加しました。この研修にはホームステイとインターンシップが含まれていました。まず、ホームステイについてですが、ホームステイしながら大学の語学センターに通って勉強していました。高校生の時に行った際はクラスの構成が同じ高校の生徒だけで、日本で受ける授業とあまり変わるところがなかったのですが、今回はインターナショナルクラスでいろんな大学の生徒がいるクラスでした。私がいたクラスではひとりドイツから来ている学生がいました。他は全員日本から来ている学生で、英語を話すことに積極的な方ばかりでとても良い刺激を受けました。短い期間でしたが、充実した時間をもとに過ごすことができ今でも連絡をとりあっています。次に、インターンシップについてです。神戸女学院生6名でオークランド市内のホテルに滞在し、日本旅行さんで研修させていただきました。ツアー資料の整理をした際に、ツアーがどのようにして作られていくのかを初めて知りました。旅行会社が、現地のあらゆる機関とコンタクトをとって、信頼関係を築いていることによって旅行ツアーが成り立っているのだと感じました。今回も、NZで過ごした日々は私の宝物となりました。NZで出会ったすべての人、一緒に過ごした神戸女学院生、そして全体を通してサポートしてくださった国際交流センターの皆さんに感謝したいです。

広東外語外貿大学

出会いと発見が詰まった1ヶ月

文学部 総合文化学科 3年生

私は春休みの約1ヶ月間、中国・広東外語外貿大学での語学研修に参加しました。前は人数不足で開催されませんでしたでしたが、今回ようやく参加することができました。

広東外語外貿大学はたくさんの緑に囲まれていて、食堂のご飯はどれも美味しく、お洒落なカフェもあり、とても過ごしやすい環境だと感じました。授業は他の留学生たちと一緒に受けました。皆積極的に発言をしていたので、最初はその状況に戸惑いましたが、徐々に積極性が身に付き、自分から質問や発表ができるようになりました。

普段は日本語学科の学生と交流する機会が多かったです。皆日本語がとても流暢なので、冗談を言い合ったり困った時には対応してくれたり、とても親切にしてくれました。休みの日には市内観光をしたり、一緒に映画を観に行ったりもしました。皆で船の上から見た広州の夜景は、今でも鮮明に覚えています。

中国と聞くと、汚染や領土問題など、あまり良いイメージを持っていないかもしれません。しかし、現地では素敵な出会いがたくさんありました。サポートしてくれた日本語学科の友人たち、バスの中で偶然仲良くなった地元の方、「元気？」といつも声を掛けてくれたジュース屋の店員さん。想像していた中国とはまるでかけ離れていました。私はこの研修で、中国の魅力と面白さを再発見することができました。こんな機会を与えてくれた神戸女学院、両親を始め支えてくれた人全てに感謝したいです。



観光地で出会った美女と一緒に！

梨花女子大学

韓国で学ぶということ

文学部 総合文化学科 3年生

私は春休みの約2週間、梨花女子大学での語学研修に参加しました。短い期間でしたが、この間に多くの気づきと学びがありました。研修に参加する前は、日韓の歴史問題などを韓国の学生たちと話し合いたいと考えていました。しかし、話し合いに至るまでの、韓国語の実力が足りていないことに気づきました。最初に行われた会話のテストでは言いたいことが伝えられず、また、全て韓国語で行われる授業は慣れるまで時間がかかりました。それは、大学で習った韓国語が実際に使えるようにはなっていなかったことを感じた瞬間でした。それでも毎日の授業と生活する中で少しずつ聞き取れるようになっていったため、語学を身につけるには実際に話し、使うことがとても重要であると実感しました。「話すこと」に関しては課題が残りましたが、「書くこと」に関しては「日韓共同授業」の経験で自信を持つことができました。授業では、日本と韓国の差異に関するテーマを取り上げ、資料の作成から発表までの作業の多くが韓国語のため、最初はとても時間がかかりました。それも終わるころには、毎日覚えてきた単語が増えていったことで、書くスピードが驚くほど上がりました。これらの経験から、実力をつけて再び韓国で、韓国語を勉強したいと考えるようになりました。

最後に、このような機会を与えてくださった神戸女学院とお世話になった方々に感謝して、今後も韓国語の勉強に励んでいきたいと思えます。



研修中毎日通った ECC

<私の研究>

起源は目標である (“Ursprung ist das Ziel”)

高村 峰生



海外文学に興味を持ったのは14、5歳の頃で、借りてきた文庫のページをめくることが、私の今に至る研究の原点ということになるだろう。傷つきやすい時期における現実からの逃避という面が

あったのは否めず、やはり重度の文学依存者は何らかの挫折を内に抱えているものかもしれない。その頃はどこかの国の文学だけを集中して読むということではなくて、昨日はカフカ、今日はジイド、明日はプーシキンという具合に乱雑に読み散らかしていたが、それらは様々な形で自分の日常を彩り、変性し、「遠く」を夢見させてくれた。

後年、一応はアメリカ文学者となるべく専門教育を受けながら、博士課程の6年間を過ごしたイリノイ大学では比較文学科に所属したのも、青春期の乱読が基礎にあると思う。比較文学とは何かとよく問われるが、多国間の文学の相違を扱うとか、様々な表現形態や媒体を横断的に分析するなど説明できるものの、結局は各研究者が己の信じる方法によって人類の知的、美的、社会的営みを分析する場所としか言えない。エドワード・サイードが述べたように、比較文学者の使命はあらゆる専門の外部にその身を置き、永遠にアマチュアであり続けることであるのだ。

専門を領域化することのないこの学問分野は私を「領域を愛さなければならない」という学者的強迫から解放すると共に、実験的になる自由を与えてくれた。旅人の気楽さというものもあるし、旅人の英知というものもある。もちろん私は普段は主としてアメリカ文学を教える一介の大学教師であるが、いつでも比較文学者になることができる自由がなければ研究者としての情熱を保ち続けることは難しかったかもしれない。その火は遠く少年時代にともされたのである。

(英文学科准教授)

私の研究

北川 将之



私の研究テーマはインドの地方の民主主義です。インドでは民主主義が極めて複雑な形で運用されています。有権者が8億人を超えるインドは「世界最大の民主主義」の国であり、民主主義の「実験場」と呼ばれることがあります。

例えば有権者400名程度の区画を設定して、住民に直接利害がある行政プログラムに関しては、「住民集会」で議決することが、法律で義務付けられています。そんな手間のかかることを行っているのか疑問でしたが、現地調査をして驚きました。政府役人や村議員、高齢者や若者、男女の有権者が、広場のテントで2時間近く議案を話し合っていました。更には、州の役人が集会をビデオカメラで撮影して記録を残すことも義務化されています。全国で「直接民主主義」型の住民集会を年2回以上実施していると想像しただけで、その壮大な規模にため息がでます。

また、インドには雇用や教育面で「後進的」なカースト・コミュニティに対して、大学入学試験や公務員採用で優遇枠が設定されています。これは「留保制度」と呼ばれています。留保制度は村議会にも導入されており、ある選挙区では州政府がリストアップした後進のカーストしか村議員になれません。更にこの留保選挙区はローテーションで選挙毎に組み替えられており、非常に複雑な仕組みです。民主主義には時間と労力がかかると感じます。

最近、村選挙に「義務的投票制度」が導入されました。これは、村選挙で投票を義務化したもので、罰則はありません。ただし、「投票しない自由」も保障するために、「投票したい候補者なし」のボタンを電子投票箱に設置することが決められました。このように民主主義の新たな試みに果敢にチャレンジする点が、インド政治の魅力だと思います。

(総合文化学科准教授)

<ゼミ紹介>

阪神・淡路大震災発生前後のゼミの思い出 ～約25年間のゼミをふり返って～

小松 秀雄

現在のゼミの紹介ではなく、約25年間のゼミをふり返りながら、阪神・淡路大震災の頃の思い出深い3回生ゼミを中心に書いてみます。

本学に着任以来、主に「地域の社会学」をテーマにゼミ活動を続け、学生とともに各地にフィールドワークに行きました。遠くは香川県琴平町（こんびらさんの門前町）、和歌山市、金沢市、横浜市へ、近くは京都市、大阪市、神戸市、滋賀県彦根市などへ出かけ、地域の町内会活動や祭りなどについて観察と聞き取りを試みました。

1995年1月16日、ゼミ旅行とフィールドワークを兼ね3回生のゼミ生と一緒に京都市に行き、御所の東隣のホテルに宿泊していた時、17日早朝、阪神・淡路大震災に直面しました。幸いにも京都市内は重大な被害に見舞われなかったものの、ゼミ生たちはすぐに神戸市や西宮市の実家、本学の学生寮に戻ることはできませんでした。17日午後までにゼミ生たちはホテルのスタッフたちの協力の下、電話を使って実家や知り合いから必要な情報を得ることができ、被災地以外の実家や親戚などに身を寄せることになりました。非常時でも冷静に対応していた彼女たちの姿を今でも覚えています。

阪神・淡路大震災が発生する約3か月半前、前述の3回生のゼミ生12名とともに、「大阪市の新しい都市づくり」を象徴する大阪南港のATC（アジア太平洋トレードセンター）（1994年4月開業）を見学しました。写真はATCで撮ったものですが、「時の流れ」を感じます。

（総合文化学科教授）



大阪南港 ATCにて（1994年9月27日）

多角的に考え、自分なりの考えを

三浦 欽也

私のゼミでは、私がかつとも情報工学を専攻していたことから、ヒトの認知や情動の働きを記号的、あるいは数理的にモデル化して分析・再構成することをテーマとしています。私自身は、ヒトがヒトやその他の生物について、「ヒトらしい」とか「生き物らしい」とか「かわいい」とか「感じる」のはなぜなのか（どういうメカニズムなのか）ということに興味がありますが、学生の卒業研究のテーマは、各自の興味に応じて、かなり自由に選ばせています。どのようなテーマを選んだ場合でも、ヒトの認知や情動の働きをモデル化するという視点で考えてもらっています。

ゼミは3年次から始まりますが、3年次の前期は適当な書籍を選んで輪読・討論し、基礎的な知識をつけるとともに、批判的講読による問題意識の醸成を目指しています。3年次の後期は、各自で興味のある文献を探してきてもらい、講読・討論を重ねて卒業研究のテーマを絞り込んでいきます。4年次では早期に卒業研究テーマを決定し、必要に応じて実験・調査を実施し、適宜進捗状況を報告しあいながら、卒業論文を仕上げていきます。

ゼミでは、さまざまなものの見方・考え方を通して多角的に考えることを大事にしていますが、その上で、一貫した自分なりの考えを構築していく、そのような力を身につけてほしいと願っています。

（心理・行動科学科教授）



3年生のゼミ風景

<課外活動紹介>

[クラブ] **ラクロス部**

私たちラクロス部は、毎年夏に行われるリーグ戦に向け、週に5日グラウンドで練習に励んでいます。

ところで、みなさんは、ラクロスをご存知ですか。ラクロスとはクロスと呼ばれるスティックでボールを運び、得点を競い合う競技で、そのスピードと迫力は他の競技では味わえないほどの興奮があります。ラクロスは大学生から始める人が多く、スタートラインが同じであるため、努力次第でどんどん上を目指すことができ、日本代表も夢ではありません。

私たちラクロス部は朝8時から活動しており、朝は少し早いですが、その分一日が長く、充実した日々を送ることができています。現在の部員数は約40名で、1回生から4回生まで先輩後輩問わず、練習外でもご飯に行ったり、遊びに行ったりと仲がすごく良いのもラクロス部の特色です。また、ラクロスは、学校外での活動も盛んで、他大学の友達がたくさんできます。

練習は楽しいだけではなく、厳しいときや辛いときもありますが、必ず同期や先輩後輩などかけがえのない仲間が支えてくれ、それを乗り越えた先には喜びや達成感が待っています。仲間と同じ目標に向かって練習に励み、共に成長する大学の4年間は笑顔と涙でいっぱいの最高の青春となります。

みなさんの大学生活、私たちとともに充実したものにしませんか。ラクロスに少しでも興味がある方はぜひ一度グラウンドにお越しください。部員一同、お待ちしております。



昨年のリーグ戦での集合写真

[クラブ] **自然散策部**

こんにちは、自然散策部部長です。自然散策部と聞いてどんな部活なのかな？と思う方も多いと思います。わたしたちの活動はこの岡田山に自然に生えている草花を使ってクッキーやケーキを作ったり、時には遠足に行き様々な活動を通して自然を楽しむことが主な活動です。

春にはたけのこ掘りやいちご狩り、夏には遠足、秋には紅葉狩り、また毎年愛校バザーと岡田山祭では自分たちで取ったよもぎ、ローズマリーを使い、ケーキやクッキーや茶葉などを作って販売しています。自分達でも食べたことのない身近な草花を使って料理を作るのは毎回ドキドキしますが、身近な植物が意外とおいしかったり、毎回新しい発見があるのがこの部の魅力の1つでもあります。遠足では過去に花鳥園や嵐山などに行きました。自然に触れるだけでなく、観光も楽しめるので私も遠足をいつも楽しみにしています。

現在、部員は9名と少なめですが、その分団結力はあります。バザーや岡田山祭の前準備は大変ですが、個性豊かな部員たちと作業しているとあっという間に時間が過ぎていきます。それにみんなで協力して作ったものが完売したときは何にも言い換え難いほどの達成感があります。

今回の愛校バザーでは、たけのこご飯とよもぎクッキーを販売しました。この記事を読んで、自然散策部に興味を持った方は是非見学に来てください。



3月に行ったいちご狩り

中高部報告

ヨーロッパ女子数学オリンピック
(EGMO) に参加して

高等学部 2年生

4月に、ベラルーシの首都ミンスクで行われたEGMOに参加しました。憧れの大会だったので、選んでいただいたときは本当に嬉しかったです。しかし、それからは不安とプレッシャーとの戦いでした。国際大会まで時間がなく、当日までにどこまで実力をあげられたのか不安なまま日本を出発しました。ミンスクに着くと、まず、見慣れない文字や聞きなれない言葉、長すぎる入国審査（ビザが必要な国なので）に戸惑いました。また、大粒のあられが降ってくるほど寒かったです。でも、建物や道路は広くて大きく、現地の人々は親切でどこか温かい感じがしました。コンテストは2日間にわたって行われます。慣れない生活や開会式などの慌ただしさで当初の予想ほど緊張もなく臨め、失敗もありましたが、なんとか銅メダルをいただきました。EGMOでは、他にもみんなで多くの観光地を訪れたり、他国の様々なチームと国際交流ができ、連日連夜楽しむことができました。最後に、数学科主任の先生、直前まで答案を添削してくださりありがとうございました。それから、応援して下さった先生、先輩、友達、その他関わって下さった全ての方々に感謝します。今回、このような機会に恵まれましたが、まだまだ実力不足を痛感したので、これからも精進していきたいと思っています。



中高部図書室報告

I. 2014年度の主なできごと

(1) 蔵書点検 2014年7月15日～25日

II. a 2014年度増加図書冊数(資産化図書)

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	8	0	0	8
洋書	0	0	0	0
合計(冊)	8	0	0	8

b 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減(資産化図書)

2014年度 増加数	8
2014年度 除籍数	270
蔵書数(冊)	9,118

c 消耗図書費の蔵書冊数の増減

2014年度 増加数	1,437
2014年度 除籍数	1,641
蔵書数(冊)	59,567

III. 2014年度貸し出し冊数

J1	7,358
J2	2,558
J3	2,313
S1	1,123
S2	690
S3	121
教職員	498
大学生・大学院生	49
その他	4
合計(冊)	14,714

貸し出し日数 205日 1日平均 58.6冊
(中高部図書室司書教諭)

2015年度中学部入学試験結果報告

募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	223	218	157	140

日程：2015年1月17日(土)・19日(月)

2015年度中高部転入学試験結果報告

	志願者数	受験者数	合格者数
転入学	1	1	0

日程：2015年1月27日(火)

(中高部事務室)



2014年度学校評価について

個人情報保護のため、
48ページ目から49ページ目は削除しています。

中高部 P.T.A. 報告

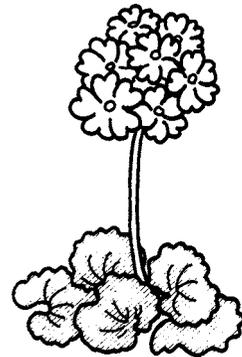
個人情報保護のため、
50ページ目から51ページ目は削除しています。

J1 デイキャンプ報告

新入生にとって初めての登校となる4月1日、2日にわたり、J1 デイキャンプが行われました。緊張した面持ちで登校してくる新入生に、小学校とは違う新しい学校、クラスに早く慣れるよう、上級生が計画し、準備してきたプログラムです。各クラスを5つの班に分け、それぞれの班に上級生のカウンセラーが2～3名つき、班対抗でオリエンテーリングをしたり、レクリエーションプログラムをしたりしました。また恒例となった、クラス全員でのジグソーパズル作りも行われ、各クラス違った個性の溢れる絵が完成しました。これは真っ白な新入生が6年かけて自分たちの色に染め、真の神戸女学院生へとになっていく、中学に入ってから最初の共同作業として、代々受け継がれています。ジグソーパズルには6年間の目標を書き、4月いっぱい校舎に飾られており、参観日で保護者の方々にも見ていただきました。今年のJ1の学年カラーはオレンジで、この色の通り、この2日間を通して元気いっぱい明るい表情を見せてくれるようになりました。

自分たちが先輩にしてもらってきたことを思い出しながら、準備を重ね、試行錯誤してきた上級生にとっても、この2日間は有意義なものであったと思います。幹部生徒をはじめとする上級生の心配り、綿密な計画のおかげもあり、満開の桜の花のもと、無事に終了しました。準備や当日お世話になりましたすべての方に感謝して、ご報告いたします。

(2015年度ディレクター)



大阪水上隣保館訪問 4月18日(土)

たとえ天気予報が【雨】と宣言しても、この行事は晴れてしまう。またしても、この行事は天候に恵まれた。4月は降水が続いたが、この日は快晴。皆が、爽やかな個々の想いに包まれながら行うことができた。当日の子羊保育園の子どもたち27名、園の先生方6名、本校からは、生徒73名、引率教員5名という大勢の参加で賑やかな一日を過ごせた。

生徒たちは、勉強だけでなく、他者への貢献の実践もやるという本校の良き伝統を体現してくれた。事前の説明会、当日朝の活動打ち合わせ会で、柳より、隣保館の歴史、そして子どもたちの置かれた厳しい状況を伝えたことを皆が認識し、それぞれが全力で子どもたちと向き合い、子どもたちの記憶に残る楽しい一日になるよう工夫し頑張り抜いた。あくまで内輪の集まりにおいては、活動に向けての士気を高め、教員サイドからの生徒への激励は意味がある。毎回心底思っていることを、今回は表現してみた。

いつものように手作りの弁当、そして焼肉、キムチ各種を用意し、子ども達、園の先生方に食べていただくことができた。毎度のことながら、子どもと向き合うことの難しさや、しんどさを体感しながらも、子どもたちのあまりの可愛さに本校生徒は皆、まいってしまったようである。

過去25年間で、延べ3,000人に及ぶ卒業生、現役生たちが長年持ち続け、繋いできた、その心意気が有る限り、今後もこの行事は存在するであろう。この日のために尽力して下さった多くの方々に感謝いたします。有り難うございました。

(中高部教諭)

春の遠足

爽やかな春の日差しの中、4月17日(金)に春の遠足が行われました。学年ごとに六甲山系の異なるコースを歩きました。

J1：新神戸→外国人墓地で墓前礼拝→再度公園→諏訪山公園

J2：六甲護国神社→摩耶山掬星台→王寺公園

J3：鈴蘭台→再度公園→諏訪山公園

S1：高山植物園→六甲ケーブル

S2：諏訪山公園→森林植物園→谷上

S3：王子公園→摩耶山掬星台→布引ハーブ園

新しいクラスの仲間たちと親睦を深める良い機会となりました。

(保健体育委員会)

54ページ目から56ページ目は削除しています。

春の子ども会報告

去る4月29日に春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童擁護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす、伝統ある行事なのですが、今回は6施設の子どもたちを招待しての開催となりました。今年度も会場は神戸女学院。神戸女学院では、高等学部自治会の役員が中心になって、関西学院の学生とともに入念な打ち合わせと準備を重ねてこの日を迎えました。

当日はお天気に恵まれ、朝9時過ぎから送り迎え係の高校生に連れられて各施設から順次子どもたちが到着、10時前に、開会式が始まりました。午前中は中高部1号館にて各種ゲームに興じ、お昼にはグラウンドで本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。その後はそのままグラウンドで、午後3時過ぎまで高校生と子どもたちとが一体となり、しっぽおにや玉入れ、宝とり、キッキングスナイパーを楽しみました。そして閉会式を経て午後4時前には子どもたち全員が、高校生に付き添われて帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校の生徒たちにとっても最も楽しい行事の一つです。満面の笑顔が絶えない、実に素敵な一日となったことに感謝して「報告」とさせていただきます。

なお、当日の引率教員は7名でした。

(高等学部自治会顧問)

2015年度体育祭

6月2日(火)に体育祭が行われました。5月に入ると30℃を超える日もあって天候や熱中症が心配されましたが、当日はちょうどよい体育祭日和となりました。昨年の体育祭から良いところは引き継ぎ、今年ならではの改良も加えながら、この日のために約1年をかけて準備してきました。J2～S3の学年対抗パフォーマンスの創作と練習、組ごとの競技練習、企画運営に関わる会議など、時には意見が対立したり、やってみて上手くいかないことに頭を悩ませたり、試行錯誤をしながら工夫や努力を重ねて進めていました。本番当日予定通りにプログラムを進行していく裏に、本当に細かな段取りや打合せの積み重ねがあり、それを生徒が中心となって作り上げていく様子に生徒の成長を感じました。また、準備体操に始まり登校競走、綱引き、玉入れ、人生レース、棒引き、200m走、DEKAパンレース、棒上帽子争奪戦、学年対抗パフォーマンス、応援合戦、600mリレー、騎馬戦とすべての競技に真剣に生き生きと取り組む生徒の姿に、改めて体育祭の奥深さと神戸女学院らしさを感じさせられました。今年は「や組」が2連覇、学年対抗パフォーマンスもブルーのS3が2連覇しました。施設関係のこと、騒音に関する事などで法人、大学の方々にも大変お世話になりました。施設課、生徒、生徒をご家庭で支えてくださった保護者の皆様、教員、その他多くの方々のご理解とお力添えによって、今年の体育祭を終えることができました。心より感謝いたします。

(体育祭企画実行委員会顧問)

<課外活動紹介>

[クラブ] J漫画・イラスト研究部

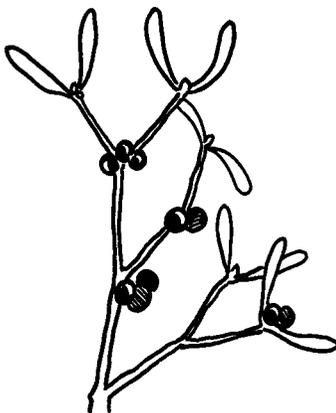
中学部 3年生

J漫画・イラスト研究部では、年2回の冊子発行の機会のために、毎週月・水・金曜日に活動をしています。いつも部の仲間と共に絵の練習をしたり、楽しく会話をしたりと学年を越えて非常に仲の良い部活です。部員全員で協力して1冊の冊子を作り上げる事はとても良い達成感を味わえるもので、仲間の大切さを知ることができます。新入部員の1年生を加え、今後もより充実した部活動の為に、新たな挑戦を積極的に行ってまいります。部の冊子をお見かけの際は、是非お手にとってご覧ください。

[クラブ] J軽音楽部

中学部 3年生

J軽音楽部は年に5回ある舞台に向けて、日々練習しています。演奏する曲は部員自ら考えて決めるので、ポップやロック、洋楽など様々なジャンルの曲ができます。また、バンドは組んでおらず、演奏するメンバーは曲によって異なるので学年関係なくみんなで楽しく練習しています。一人ひとりの心が1つに合わさって舞台が成功した時の喜び、達成感は何にもかえられません。これからもこの喜びを噛みしめていきたいです！



[クラブ] Sバスケットボール部

高等学部 3年生

こんにちは。Sバスケットボール部です。私たちは毎週火・木・金・土曜日に活動しています。公式戦はJの頃より多くて、しんどいこともあります。毎回多くのことを学べます。

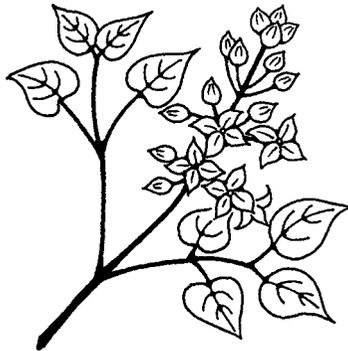
Sになって勉強や行事など、両立をしんどいと思うこともあります。1度も仲間達とバスケすることをやめようと思ったことはありません。同輩だけでなく、先輩・後輩とも一緒に声を出して汗をかいで走り回る、この経験はこれから先、何にもかえられないかけがえのないものになるでしょう。

[クラブ] S華道同好会

日本文化と季節に触れるお稽古

華道同好会は週に一回、華道の先生方に来ていただき活動しています。季節の花を使い、日本の伝統文化である華道をたしなみます。日々の活動では小原流（おはらりゅう）という流派の生け花を学んでいます。お稽古で使う花の名前なども先生方に丁寧に教えていただき、生け方を指導していただいています。学生いけばな競技会や文化祭では日頃のお稽古の成果を部員それぞれが発揮します。中高部一階、図書室前にお稽古で生けた花を展示してありますので、中高部に来られた際はぜひご覧ください。

(S華道同好会昨年度顧問)



〈学院日誌〉

4月1日(水)	学長就任式 新任教職員就任式・オリエンテーション 新任教職員創立者墓前礼拝	5月21日(木)	創立者記念日墓前礼拝
4月2日(木)	臨時評議員会	5月22日(金)	創立者記念日
4月3日(金)	大学・大学院入学式 学生寮入寮式	5月23日(土)	愛校バザー
4月6日(月)	中高部教員会議	5月27日(水)	理事会 評議員会 理事会及び評議員会メンバーとの懇談会
4月7日(火)	中学部入学式	6月2日(火)	中高部体育祭
4月8日(水)	高等学部入学式 中学部・高等学部始業式	6月10日(水)	中高部教員会議
4月17日(金)	教授会	6月19日(金)	教授会
4月22日(水)	理事会 中高部教員会議	6月21日(日)	オープンキャンパス
5月1日(金)	教授会研修会	6月24日(水)	理事会 神戸女学院教育振興会役員会 中高部教員会議
5月13日(水)	中高部教員会議	7月9日(木)	中高部教員会議
5月15日(金)	教授会	7月17日(金)	教授会
5月19日(水)	中高部教員会議	7月22日(水)	理事会
		7月24日(金)	学院リトリート

目

学長就任のご挨拶	1
KCC だより	3
創立140周年記念愛校バザー	5
新任のことば	6
人事・学内人事・慶弔・榮譽	15
神戸女学院教育振興会寄付金・その他の寄付・現物寄付	17
神戸女学院2014年度決算報告及び2015年度事業計画	18
新刊・CD 紹介	23
その他の新刊一覧	24
六甲セミナーハウス閉鎖のお知らせ	24
史料室の窓・デフォレスト先生ゆかりの教会	25
オフィスの宝物	26
大学報告	
“Hawaii is not only about Blue Sky and Blue Sea”	27
音楽学科舞踊専攻公演	28
ネザーランド・ダンス・シアター合格	28
沖縄平和学習の旅	29
「美容式」® アミノ酸ゼリー、完成	29
家庭会大学部会総会報告	30
大学春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）	32
2014年度 大学図書館報告	32
2015年度 大学・大学院入学試験結果概要	33
2015年度 在籍学生数	33
2014年度 就職決定状況	34
2015年度 キャリアサポートプログラム（予定）	35
受入れ留学生報告	36

次

留学報告	37
中期英語留学報告	39
中期海外研修報告	39
語学研修報告	40
私の研究	43
ゼミ紹介	44
課外活動紹介	45
中高部報告	
ヨーロッパ女子数学オリンピック（EGMO）に参加して	46
中高部図書室報告	47
2015年度中学部入学試験結果報告	47
2015年度中高部転入学試験結果報告	47
2014年度学校評価について	48
中高部 P.T.A.報告	50
J1 デイキャンプ報告	52
大阪水上隣保館訪問	53
J1 春の遠足	54
J2 春の遠足	54
春の遠足 J3	55
春の遠足 S1	55
S2 春の遠足	56
S3 春の遠足	56
春の子ども会報告	57
2015年度体育祭	57
課外活動紹介	58
学院日誌	60